

リ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三十五條 豫備役後備役將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ師團長ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ

第三十六條 第二十七條第二十九條第一項及第二項第三十條第一項及第三項第三十一條乃至第三十四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十七條 第二十九條第三十條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十八條 本款ハ豫備役後備役ノ將校相當官ニ適用ス

第二章 准士官ノ服役

第三十九條 本章ニ於テ准士官ト稱スルハ步騎砲工輜重兵特務曹長砲工兵上等監護及二等軍樂長ヲ謂フ

第四十條 特務曹長ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス警備隊ニ在テ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第四十一條 准士官ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ

砲工兵上等監護 五十一歲

二等軍樂長 四十八歲

步騎砲工輜重兵特務曹長 三十七歲

第四十二條 現役年限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

第四十三條 特務曹長ハ現役年限年齢ニ滿タサルモ正當ノ事故アルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得

第四十四條 特務曹長ハ現役年限年齢ニ滿テ現役ヲ退キタルトキハ豫備役ニ豫備役終ルノ後ハ後備役ニ服セシム

第四十五條 豫備役後備役特務曹長ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第四年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ豫備役滿期後五箇年トス

第四十六條 豫備役後備役砲工兵上等監護及豫備役後備役二等軍樂長ノ服

役年期ハ豫備役ニ在テハ現役定期年限ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トシ
後備役ニ在テハ現役定期年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日ト
ス

第四十七條 准士官ノ現役豫備役後備役服役ニ關スル諸般ノ事項ニ就テハ
第一章第二條第五條第十三條第十四條第十六條第十七條第三十八條ヲ除
クノ規定ヲ適用ス

但第二十一條第二十二條ノ願書ハ師團長ニ差出スモノトス

第四十八條 豫備役後備役ノ下士ヨリ特務曹長ニ進級シタル者ノ服役年限
ハ豫備役ニ在テハ現役定期年限ニ滿ツル年ヨリ第四年目ノ三月三十一日
迄トシ後備役ニ在テハ現役定期年限ニ滿ツル年ヨリ第九年目ノ三月三十
一日迄トス

第三章 下士ノ服役

第一款 通則

第四十九條 下士ノ服役ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備及後備役
トス其ノ服役ヲ終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム

第五十條 各兵役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ時變ニ際スルトキ若クハ

臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期
限ヲ延ハスコトアルヘシ其ノ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五十一條 現役ヲ離ルハトキ服役十二箇年四箇月ヲ過キ豫備役後備役ニ
服セサル者及事故ニ由リ常備後備ノ役若クハ兵役ヲ免スル者ハ同時ニ其
ノ官ヲ免シ後備役滿期ノ者ハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ其ノ官消滅スルモノ
トス

第二款 現役

第五十二條 現役下士ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セ
シム

第五十三條 隊附現役下士(憲兵隊軍樂隊附ノ者ヲ除ク)ハ營内ニ居住セシム
ルヲ例トス

但警備隊ニ在テ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第五十四條 現役下士ノ服役期限ハ左ノ如シ

- 一 教導團及要塞砲兵射擊學校卒業者ヨリ下士ニ任セラレタル者及砲兵
監護ニ任セラレタル者ハ任官ノ日ヨリ四箇年

- 二 憲兵科下士ハ憲兵上等兵ヨリ任セラレタル者ハ憲兵上等兵ヲ命セラ

レタル日ヨリ步騎砲工輜重兵科下士ヨリ任セラルタル者ハ憲兵下士
任官ノ日ヨリ七箇年但臺灣憲兵ハ三箇年

三 砲兵工科學校及經理學校卒業者ヨリ諸工下士(火工下士ヲ除ク)ニ任セ
ラルタル者ハ任官ノ日ヨリ七箇年

四 工兵監護砲臺監守ハ任官ノ日ヨリ七箇年四箇月

五 蹄鐵工下士ハ入隊ノ日ヨリ五箇年
六 軍樂部下士ハ樂生ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年四箇月

第五十五條 下士ハ現役滿期ノ後現役年限年齢ニ滿ツル迄ハ數次再服役ヲ
爲スコトヲ得

第五十六條 下士ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ
砲工兵監護 砲臺監守 四十八歲
諸工長 諸工下長

憲兵科下士 衛生部下士 四十五歲
軍吏部下士 軍樂部下士

步騎砲工輜重兵科下士 四十歲

第五十七條 再服役年期ハ通常一年ヲ以テ一期トシ滿七年以上服役シ尙服
役中ノ者ハ三年若クハ二年ヲ以テ一期トシ之ヲ請フコトヲ得

一 期間ニ於テ現役年限年齢ニ滿ツル者ハ其ノ定期迄之ヲ請フモノトス
再服役ハ自己所屬ノ中隊(憲兵分隊ニ在テハ分隊警備隊ニ在テハ步兵砲兵
隊軍樂隊ニ在テハ該隊以下同シ)若クハ所屬諸本部諸官廨ニ於テスルモノ
トス

第五十八條 再服役ハ中隊ニ在テハ其ノ所屬中隊長(憲兵分隊ニ在テハ分隊
長警備隊ニ在テハ步兵砲兵隊長軍樂隊ニ在テハ該隊長以下同シ)ニ出願シ
該中隊長ハ順序ヲ經テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請
フヘシ

諸本部諸官廨ニ在テハ直屬隊長ニ出願スヘシ
但直屬長官聯隊長ト同等ノ權ナキトキハ聯隊長同等以上ノ權アル長官
ノ認可ヲ請フヘシ

衛生部軍吏部下士ノ再服役ハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ
當該監督部長若クハ軍醫部長ニ豫メ協議スヘシ
再服役ヲ許可シタルトキハ誓約書ヲ中隊長若クハ直屬長官ニ出サシム

第五十九條 再服役許可ノ後轉隊若クハ轉職シタルトキハ其ノ誓約書ヲ新
所屬ノ中隊長若クハ直屬長官ニ移スヘシ

第六十條 現役中本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

第六十一條 現役中傷疾若クハ疾病ニ由リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第六十二條 現役中傷疾若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第六十三條 憲兵下士ニシテ素行修マツサル者ハ特ニ現役ヲ免ス

第六十四條 憲兵下士其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ハラヌ官ヲ免スルコトヲ得

第六十五條 現役満期ニ至リタル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月ニ滿タサルトキハ豫備役ニ十二箇年四箇月ニ滿タサルトキハ後備役ニ服セシム

第六十六條 第六十條第六十一條第六十三條ニ依リ現役ヲ免シタル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ第六十二條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第六十四條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ兵

卒ト爲シ憲兵科及各部ニ在テハ前兵科ノ兵卒ト爲シ軍樂部ニ在テハ樂生ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十二箇年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第六十七條 現役下士ニシテ其ノ服役七箇年四箇月若クハ十二箇年四箇月ノ後尙豫備役若クハ後備役ニ服セシメトシテ志願スル者ハ其ノ年數ヲ定メ現役満期ノ際聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ願出ヘシ

聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官前項ノ服役ヲ許可シタルトキハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第六十八條 第六十條乃至第六十四條ニ當ル者アルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役常備後備役又ハ兵役ヲ免ス

但師團長及之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自ラ之ヲ處分ス
衛生部軍吏部下士ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該監督部長又ハ軍醫部長ニ移シ監督部長軍醫部長ハ經理局長又ハ醫務局長ノ認可ヲ請ヒ現役常備後備役又ハ兵役ヲ免ス

但經理局所屬官衙ニ在テハ該局長自ラ之ヲ處分ス

第六十九條 現在中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役服役年期ニ算入セス

第三款 豫備役及後備役

第七十條 豫備役後備役下士ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第七十一條 豫備役下士ノ服役期限ハ其服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス

第七十二條 後備役下士ノ服役期限ハ豫備役滿期ノ後五箇年トス

但七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第七十三條 豫備役後備役下士服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ辭令ヲ用非スシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第七十四條 豫備役後備役下士滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第七十五條 豫備役後備役下士傷疾若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ

難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス
在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第七十六條 豫備役後備役下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集ス

第七十七條 豫備役後備役下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカ
ヲサル職務ヲ奉スル者外國ニ在ル者對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ヲ除ク及市町村長助役收入役トナル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第七十八條 豫備役後備役下士ニシテ他ノ聯隊區警備隊區ニ在テハ其ノ區以下同シニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

但許可ヲ受テタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者ハ指令書受領後三日以内ニ豫備役後備役編入年現官ニ任セラレタル年月日及嘗テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第七十九條 豫備役後備役下士ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ備員點呼ノ免除ヲ願ハントスルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第八十條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士ハ十四日以内ニ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程拾里計ヨリ少カラサル日數間ニ歸郷シ若後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ十五日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日以内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第八十一條 豫備役後備役下士十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年以上ノ男子ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受テ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出スヘシ

第八十二條 豫備役後備役下士兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届

出ヘシ

第八十三條 豫備役後備役下士ニシテ市町村長助役收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十四條 豫備役後備役下士ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ
但他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ノニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第八十五條 豫備役後備役下士重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令

官ニ通知スヘシ

第八十六條 豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算入セズ

第八十七條 第七十八條第三項但書第八十條第一項及第二項第八十一條第一項及第三項第八十二條乃至第八十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十八條 第八十條第八十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第八十九條 本章中ノ兵卒又ハ兵ニハ雜卒及職工ヲ包含ス

第九十條 徵兵令第七條第十六條第廿四條第廿九條第一項但書及第三項ノ規定ハ憲兵上等兵樂手補樂生及下士ニシテ官ヲ失ヒ若クハ官ヲ免セラレ兵卒ト爲リタル者並ニ第六十條ノ兵卒ニ適用ス

第九十一條 憲兵上等兵樂手補樂生ノ服役期限ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ

分テ現役豫備役及後備役トス其ノ服役終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム

第九十二條 兵卒ハ年齡滿四十歳ヲ以テ服役ノ終期トス

但第三百三十二條ニ依リ服役スル者ハ滿四十五歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

第二款 現役

第九十三條 現役兵ハ入隊ノ日ヨリ其ノ隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

第九十四條 現役兵ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス

憲兵上等兵、樂手補ハ營外ニ居住セシム

樂生中品行方正勤務勉勵技藝熟達且樂生ヲ命セラレタル日ヨリ一箇年以上精勤セシ者ハ營外ニ居住セシムルコトアルヘシ警備隊看護手、縫工、靴工中品行方正勤務勉勵且技藝熟達ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第九十五條 憲兵上等兵ノ現役期限ハ憲兵上等兵ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年トス

但臺灣憲兵ハ三箇年トス

第九十六條 砲兵助卒、砲兵輸卒、輜重輸卒ハ現役期限ハ二箇年四箇月トシ砲

兵助卒ハ一箇年間砲兵輸卒ハ四箇月間輜重輸卒ハ三箇月間在營セシム

戰時若クハ事變ニ際スルトキ其他必要ノ場合ニハ在營期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第九十七條 樂生補樂生ノ現役期限ハ樂生ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年四箇月トス

第九十八條 警備隊現役兵ノ在營期限ハ一箇年トス

第九十九條 警備隊現役兵中上等タルノ技能ヲ有スル者及上等兵、看護手ニシテ志願ノ者ハ尙一箇年間在營セシムルコトヲ得

警備隊上等兵及看護手中下士タルノ技能ヲ有スル者及縫工、靴工ニシテ志願ノ者ハ現役期限滿ツル迄在營セシムルコトヲ得

第一百條 上等兵、看護手、樂手補樂生及警備隊縫工、靴工ハ現役滿期ノ後現役定期年齡ニ滿ツル迄數次再服役ヲ爲スコトヲ得

但步騎砲工、輜重兵上等兵及看護手ハ下士タルノ技能ヲ有スル者ニ限ル前項ノ再服役ニ關シテハ第五十七條乃至第五十九條ヲ適用ス

第一百一條 兵卒ノ現役定期年齡ハ左ノ如シ

憲兵上等兵 雜卒 職工 四十歲

步騎砲工輜重兵卒 三十五歲

第百二條 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生
スルトキハ其ノ家族ノ願ニ依リ現役ヲ免ス

第百三條 現役中傷疾若クハ疾病ニ由リ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免
ス

第百四條 現役中傷疾若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ
役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第百五條 憲兵上等兵現役中左ニ掲ケル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス

一 職務ヲ辱シムルニ由リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其情ノ重キトキ

二 素行修マラス屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ説諭ヲ受クルモ悛改ノ
狀ナキトキ

第百六條 現役満期ニ至リタル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四
箇月ニ滿タサルトキハ豫備役ニ十二箇年四箇月ニ滿タサルトキハ後備役
ニ服セシム

第百七條 第百二條第百三條ニ依リ現役ヲ免シタル者ハ前條ノ例ニ依リ豫

備役又ハ後備役ニ服セシム第百四條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ

第一國民兵役ニ服セシム

但第百二條第百三條ニ當ル者軍隊第一期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ

第二補充兵役ニ服セシム其ノ服役年期ハ前役ヲ通シテ一箇年四箇月ト
ス

第百八條 上等兵看護手及樂手補ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ職ヲ失ヒ又ハ

陸軍懲罰令若クハ第百五條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵

科ニ在テハ當該兵科ノ兵卒ト爲シ憲兵上等兵及看護手ニ在テハ前兵科ノ

兵卒ト爲シ樂手補ハ樂生ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿

タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ第百六

條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十二箇年四箇月ヲ過クル者ハ

第一國民兵役ニ服セシム

第百九條 第百二條ニ依リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ同徵募區

内現役兵ノ戶主憲兵上等兵樂手補樂生ハ近鄰ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ

嶋司郡市町ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

但町村ニ於テハ町村長ノ與書證印ヲ受ヘキモノトス

嶋司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作リ願書ト共ニ聯隊區司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ本人所屬ノ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ移スヘシ

第一百十條 第一百二條乃至第一百五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役常備後備役又ハ兵役ヲ免ス

第一百十一條 憲兵上等兵樂手補樂生現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタルトキハ其ノ刑期中逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第一百十二條 現役中徵兵令第十五條ニ依リ歸休ヲ命スヘキ者ハ二箇年以上服役セタル者ニ限ル

但警備隊兵卒砲兵助卒ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル
歸休ヲ命スヘキ人員ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第一百十三條 歸休兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第一百十四條 歸休兵在郷中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ルモノトス

第一百十五條 歸休兵在郷中傷痰若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一百十六條 歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第一百十七條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得

但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコトナシ

第一百十八條 歸休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ歸カフサル日數間ニ歸郷シ着後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

退營後衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者(成年以上ノ男子ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町

村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百十九條 歸休兵十四日以上旅行又ハ寄留セントスル時ハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタル時ハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ其ノ由ヲ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百二十條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス

對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得

但此ノ場合ニ於テハ第百十九條第一項ノ例ニ依ルヘシ

第百二十一條 歸休兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百二十二條 歸休兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十三條 歸休兵重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラルトキ刑名及刑期ヲ記シ其戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十四條 歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷疾疾病其ノ他ノ事故ニテ召集ニ應ジ難キトキハ傷疾疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其ノ他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ召

集期日迄ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ届出ヘン

第百二十五條 第百十八條第一項及第二項第百十九條第一項第百廿條第二項第百二十一條乃至第百二十四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第百二十六條 第百十八條第百十九條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者及第百二十條第一項ニ違背シタル者ハ二日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第百二十七條 警備隊兵卒砲兵助卒砲兵輸卒輜重輸卒ニシテ在營期限滿チ退營後尙現役中ニ在ル者ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス其ノ在郷中ハ第百十四條乃至第百二十六條ノ規定ニ從フモノトス

第三款 豫備役及後備役

第百二十八條 豫備役後備役兵卒ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百二十九條 再服役滿期若クハ第百七條第百八條ニ依リ豫備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス臺灣憲兵ニ

シテ通常ノ現役ヲ終リ豫備役ニ入ル者亦同シ

第百三十條 前條ニ依リ豫備役ヲ終リタル者ハ五箇年間後備役ニ服セシム七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第百三十一條 豫備役後備役兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第百三十二條 豫備役後備役兵卒ニシテ各兵科衛生部軍吏部下士適任證書又ハ砲兵工科學校經理學校卒業證書ヲ所持スル者ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ志願ノ者ハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第百三十三條 豫備役後備役兵卒傷疾若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス
在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百三十四條 豫備役後備役兵卒ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此ノ限ニアラス
第三百三十五條 豫備役後備役兵卒ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依
リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習
ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ聯隊
區司令官ニ差出スヘシ

但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到著後寄留後出願ノ者ハ指令書受領後)
三日以内ニ豫備役後備役編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ
同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百三十六條 豫備役後備役兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召
集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町
村長ノ奧書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第三百三十七條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル兵卒ハ七日以内ニ衛戍
地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ歸郷シ著後七日以内
ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前
項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者
(成年以上ノ男子ニ限ル)ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷
シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ
經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲
サントスルトキ亦同シ

第三百三十八條 豫備役後備役兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキ
ハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ル)ヲ定メ市町
村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村
長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地
聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントス
ルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ
後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到著後二

十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百二十九條 豫備役後備役兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十條 豫備役後備役兵卒ニシテ市町村長助役收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十一條 豫備役後備役兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族トキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四百十二條 豫備役後備役兵卒重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族トキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四百十三條 第三百三十五條第三項但書第三百三十七條第一項及第二項第三百三十八條第一項及第三項第三百三十九條乃至第四百十二條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四百十四條 第三百三十七條第三百三十八條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 補充兵ノ服役

第四百十五條 第一補充兵第二補充兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第四百十六條 補充兵服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命サクシテ第一補充兵ハ第一國民兵役ニ第二補充兵ハ第二國民兵役ニ入ルモノトス

第四百七十七條 補充兵傷疾若クハ疾病ニ由リ補充兵役ニ堪ヘ難キ者ハ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス
 在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百四十八條 第一補充兵ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此ノ限ニアラス

第四百四十九條 第一補充兵ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

但許可ヲ受ケタルキハ寄留地到着後(寄留後出願ノ者ハ指令書受領後)三

日以内ニ第一補充兵編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第五百十條 第一補充兵ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第五百一十一條 補充兵十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受テ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第五百一十二條 第一補充兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町

村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百五十三條 第一補充兵ニシテ市町村長助役收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百五十四條 補充兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ負擔スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百五十五條 補充兵重罪輕罪罰金ヲ除クノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四

日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百五十六條 第四百四十九條第三項但書第百五十一條第一項及第三項第百五十二條乃至第百五十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第百五十七條 第百五十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セズ若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六章 雜則

第百五十八條 一年志願兵六週間現役兵及屯田各兵科下士兵卒ノ服役ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第百五十九條 一年志願兵ヨリ豫備役ニ轉入シタル士官准士官及下士兵卒ノ豫備役後備役服役年期ハ一年志願兵條例ノ規定ニ依ル

第百六十條 士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官及見習軍吏ニシテ各兵科各部ノ下士ニ任セラレ又ハ兵卒ト爲リ豫備役ニ編入セラレタル者ハ其編入年ノ十二月一日ヨリ起算シ七箇年四箇月間豫備役ニ豫備役終

ルノ後五箇年間後備役ニ服セシメ後備役終ルノ後ハ第一國民兵役ニ服セシム

第六十一條 本條例中特ニ下士兵卒(雜卒職工ヲ包含ス以下同シ)ノ服役期限ヲ定メサルモノハ總テ徵兵令ノ規定ニ從フモノトス

第六十二條 現役豫備役將校同相當官(一年志願兵ヨリ豫備役將校同相當官トナリタル者ヲ除ク)ニシテ服役延期中進級シタル者ノ服役期限ハ前官ノ現役定限年齢ニ依ル

第六十三條 豫備役後備役將校同相當官准士官下士兵卒及第一補充兵ニシテ文官ニ任セラレ若クハ公吏トナリ餘人ヲ以テ代フヘカラスル者又運輸其他ノ業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ノ職務ヲ執ル者ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ充員召集若クハ後備軍召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第六十四條 徵兵例第二十四條及本條例第二百二十六條第七十七條ノ餘人ヲ以テ代フヘカラスル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ勤務演習及簡閱點呼免除ノ認可ヲ受ケ將校同相當官及准士官ニ在テハ本人所管ノ師團長ニ下士以下ニ在テハ本人所管ノ聯隊區司令官トニ通報スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ

第六十五條 本條例ニ依リ町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出ス在郷陸軍軍人ノ願届書ハ尙嶋司郡長ヲ經由スヘシ

附 則

第六十六條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ區戸長及ヒ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第六十七條 陸軍豫備後備將校服役條例陸軍豫備後備下士兵卒服役條例、陸軍現役下士上等兵再服役條例、陸軍歸休兵條例及明治二十二年勅令第三十七號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

第六十八條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○陸軍省訓令甲第三號(明治廿九年六月十六日)

陸軍服役條例第六十條ニ依リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄等ノ死亡處刑若クハ失踪等ハ市町村長(東京市京都市大阪市ニ在テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區戸長及之ニ準スヘキ者)ノ證明書癘疾不具等ハ醫師ノ診斷書ヲ具シ其親族ヨリ本人ニ送付セシムヘシ

○陸軍省令甲第三十九號(明治十九年十月九日)

陸軍召集條例目次

- 第一章 總則
 - 第二章 充員召集
 - 第三章 後備軍召集
 - 第四章 近衛充員召集
 - 第五章 近衛後備軍召集
 - 第六章 演習召集
 - 第七章 點呼召集
 - 第八章 召集準備
- 陸軍召集條例
- 第一章 總則
- 第一條 陸軍召集條例ハ平戰兩時ノ緩急ニ應シ歸休兵並ニ豫備役後備軍驅員兵員ヲ召集スルノ手續ヲ示スモノナリ
- 第二條 凡ソ召集ハ之ヲ分チテ左ノ六種トス
- 一 充員召集
 - 二 後備軍召集
 - 三 近衛充員召集

- 四 近衛後備軍召集
 - 五 演習召集
 - 六 點呼召集
- 第三條 充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集スルモノトス
- 第四條 充員召集ヲ別チテ二種トス戰時若クハ事變ニ際シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スル者ヲ第一充員召集トシ戰時若クハ事變ニ際スルモ其方面未タ戰爭ヲ期セス單ニ警戒ニ止マリ又ハ臨機分遣駐屯等ノ爲メ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成セサル者ヲ第二充員召集トス
- 第五條 凡ソ充員召集ニ當リ歩兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ各隊所在地ニ其他ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ鎮台下ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ本ニ召集スルモノトス然レトモ左ニ掲クルモノハ本營各部及ヒ各隊所在地ニ召集スヘシ
- 一 本營各部ノ行李及ヒ縱列等ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員
 - 二 各隊ノ行李ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員

三 本營各部及ヒ各隊ニ要スル歸休兵並ニ豫備役ノ看護卒及ヒ諸職工
第六條 後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ充員召集ニ次キ一部若
クハ全國ノ後備軍驅員兵員ヲ召集ス

但驅員ノ召集ハ兵員ノ召集ニ先ツモノトス

第七條 凡ソ後備軍召集ニ當リ歩兵科ノ後備軍驅員兵員ハ鎮台下若クハ營
所所在地ニ其他ノ後備軍驅員兵員ハ總テ鎮台下ニ召集スルモノトス然レ
トモ輜重兵科ノ後備軍驅員兵員ハ時宜ニ由リ營所所在地又ハ其他ノ地ニ
召集スルコトアルヘシ

第八條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ近
衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第九條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補
充隊ヲ編成スルモノトス

第十條 凡ソ近衛充員召集ニ當リ近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ總テ東
京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルモノトス

但一旦軍管內近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地
ニ引率セシム

第十一條 東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ一部ノ近衛充員ヲ行フトキハ諸
隊本屬ノ如何ヲ問ハス該地最寄軍管ヨリ召集シテ之ニ充ツルモノトス

但本條一部ノ充員ヲ行フトキハ補充隊ヲ他ノ地ニ於テ編成スルコトアル
ヘシ

第十二條 近衛後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ近衛充員召集ニ
次キ一部若クハ全國ノ近衛後備軍驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第十三條 凡ソ近衛後備軍召集ニ當リ近衛後備軍驅員兵員ハ總テ東京ニ召
集スルモノトス

但一旦軍管內近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京ニ引率セシム

第十四條 演習召集ハ臨時若クハ定時ニ於テ歸休兵並ニ豫備役後備軍驅員
兵員ヲ召集スルモノトス

第十五條 臨時演習召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ行フヘキ充員召集又ハ後
備軍召集ノ手續ヲ演習スルモノニシテ豫メ時期ヲ定メ之ヲ行ヒ定時演
習召集ハ豫メ時期ヲ定メ之ヲ行フモノトス

第十六條 臨時演習召集ハ第二章第三章第四章及ヒ第五章ヲ適用スルモノ
トス

第十七條 定時演習召集ハ之ヲ分チテ豫備役驅員兵員演習召集豫備軍演習召集ノ二種トス

第十八條 豫備役驅員兵員定時演習召集ハ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス

但豫備役兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第十九條 近衛豫備役驅員兵員定時演習召集ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス

但一旦軍管内近衛兵集合地ニ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシム

近衛兵員ハ時宜ニ由リ本人原籍地所管ノ鎮台ニ於テ鎮台兵員ト合シ演習召集ヲ行フコトアルヘシ然ルトキハ其召集法歩砲兵ニ在テハ各隊充足要員ノ九分一騎工兵ニ在テハ同六歩一ノ比ヲ以テ之ヲ召集スヘシ其他ノ扱ハ鎮台兵員ト異ナルコトナシ

但鎮台兵員ト合シ演習召集ヲ行フトキハ近衛豫備役驅員ハ召集セサルモノトス

第二十條 後備軍定時演習召集ハ後備軍驅員兵員ヲ召集シ聯隊若クハ大隊

常備軍戰ニ編成シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス
時定員 但兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第二十一條 近衛後備軍定時演習召集ハ本人原籍地所管ノ鎮台ニ於テ鎮台

後備軍ト合シ之ヲ行フモノトス其方法ハ第十九條第二項本文ノ例ニ準ス

第二十二條 點呼召集ハ近衛鎮台ノ豫備役後備役兵員實查ノ爲メ時期ヲ定メ之ヲ召集スルモノトス

第二十三條 點呼召集ハ郡區駐在官其管轄郡區ヲ巡回シ兵員ノ概チ一日間ニ往復ヲ爲シ得ヘキ里程内ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス

第二十四條 凡ソ召集ハ定時演習及ヒ點呼召集ヲ除クノ外發令後決シテ訓示ヲ仰クヘカラス故ニ陸軍諸官廳ハ勿論地方廳ニ於テ豫メ諸官ノ擔任スヘキ細務ヲ規定シ置クヘシ

第二章 充員召集

一 第一充員召集

第二十五條 鎮台司令官ハ第一充員召集ノ令アルトキハ之ヲ營所司令官鎮台後備軍司令官衛戍司令官其他直屬ノ各團隊各部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長 憲兵分遣隊長ニ在テハ分遣隊長以北海道廳長官府縣知事並ニ警視總監 下憲兵本部長トアルモノ皆同シ

及ヒ大審院長控訴院長檢察長始審裁判所長檢察上席ニ通知スヘシ

但營所司令官所在ノ師管營ニ在テハ同司令官本條ノ取扱ヲ爲スヘシ

第廿六條 鎮台營所後備軍司令官ハ第一充員召集ノ令ニ從ヒ之ヲ府縣駐在官ニ達シ同官ハ郡區駐在官ニ達スヘシ

第廿七條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ豫備役驅員ノ召集令狀第一樣式中ニ年月日ヲ記シ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ郡區長ニ送付スヘシ

第廿八條 憲兵本部長ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ憲兵ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ

但憲兵部ノ設ケナキ地ハ警察官吏專ラ之ヲ擔任シ憲兵部ノ設ケアル地ノ警察官吏ハ憲兵部ノ職務ヲ補助スヘキモノトス

一 郡區駐在所郡區役所若クハ戶長役場ニ就キ召集ニ應スヘキ者ノ人名ヲ承知シ各自ノ家ニ到リ遲滯ナク發程セシヤ否ヲ調査シ若シ故ナク猶豫スルモノアルトキハ速ニ發程ヲ督促スヘシ

二 召集ニ應スヘキ驅員兵員通行ノ沿道宿驛ニ在テハ其宿泊スヘキ軍用旅舎ヲ定メ晝間ハ標旗第二樣式夜間ハ標燈第二樣式ヲ掲ケシムヘシ

三 河川港灣停車場等ノ要地ニハ出張シテ其通行ヲ容易ナラシムヘシ

四 其筋ノ通知ニ從ヒ失踪逃亡者ヲ搜索シ或ハ違令者ヲ拘留シ口供ヲ作り之ヲ召集地ニ引致シ若クハ遞送スヘシ

第廿九條 警視總監ハ第廿五條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達シ又北海道廳長官府縣知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ

第三十條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ戶長ニ達シ併セテ驅員兵員ノ召集旅費ヲ下付シ又第廿七條ノ郡區駐在官ヨリ送付スル豫備役驅員ノ召集令狀ハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各自ニ配達スヘシ

但本條ノ旅費ハ召集發令ノ際直ニ郡區署ノ金庫國庫金取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ヨリ郡區役所ニ送付スルヲ以テ領收證ト引換現金ヲ受領スヘシ

第三十一條 戶長ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員ノ召集令狀中ニ年月日ヲ記シ豫定ノ脚夫ヲ以テ各自ニ配達スヘシ

第三十二條 歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ二十四時以內ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ而シテ一日行程十里十里詰ハ最下

限ヲ示ス以下十里詰
トアルモノハ皆同シヲ以テ旅行シ又流車汽船等ノ便アルモノハ里數ニ拘
ハラヌ之ニ依リ速ニ召集地ニ參着シ參着ノ上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令
官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第三十三條 鎮台營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第一充
員召集ノ發令後速ニ本營各部及ヒ各隊ヨリ充員要員票第三樣式ヲ受領スヘシ
第三十四條 府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後充員名簿ヲ携ヘ速ニ召集
地ニ出張スヘシ

第三十五條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後隊中ニ生兵病者犯罪者等アル
トキハ戰時名簿ヲ添ヘ之ヲ補充隊ニ移スヘシ

第三十六條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中隊ニ
配當シ且補充隊ニ交附スヘシ

第三十七條 豫備役艦員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮台營所後備軍司令
官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ其人名ヲ鎮台後備軍司令官ハ鎮台司令官ニ
營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ申告スヘシ
但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官各自ノ召集令狀ヲ引
揚ケ其人名ヲ聯隊長ニ申告スヘシ

第三十八條 歸休兵并ニ豫備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮台營所
後備軍司令官ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ午帖ヲ點檢シ
歸休兵ハ直ニ本隊ニ歸ラシメ其他ノ兵員ハ充足要員票ニ照シ本營各部及
ヒ各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充隊ニ交付スヘシ
但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官本條ノ事務ヲ處辨ス
ヘシ

第三十九條 本營各部及ヒ各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給
シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ格納スヘシ
但本營各部ニ於テハ豫メ武器被服ヲ武庫主管及ヒ各隊ヨリ受領シ置ク
モノトス

第四十條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ召集ニ應
シタル者ノ戰時名簿ヲ取纏メ之ヲ其所屬ノ本營各部及各隊ニ送付スヘシ
第四十一條 本營各部及ヒ各隊ニ於テハ兵員受領ノ後醫官ヲシテ各自ノ身
體檢査ヲ爲サシメ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ戰時名簿ヲ添ヘ補充隊ニ交付
シ又全ク兵役ニ堪ヘサル者ハ同名簿ヲ添ヘ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若
クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ

但本條ノ兵役ニ堪ヘサル者ハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ヨリ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ

第四十二條 召集ニ應スヘキ豫備役員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其事由ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫ノ陸軍醫官ハ最寄地方醫師以下陸軍 診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官トアルモノ皆同シ 分營所在地ニ參着スヘキモノテ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ駐在官ヲ經テ府縣駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第四十三條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部 憲兵部ノ設ケナキ地ハ最寄警兵部トアルモノ皆同シ 證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ 但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第四十四條 召集ニ應スヘキ豫備役員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第四十二條ノ手續ニ據リ准士官以上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向テ發程シ參着ノ上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在

地ノ府縣駐在官ニ届出ツヘシ

第四十五條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第四十三條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向テ發程シ參着ノ上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第四十六條 召集ノ期ニ後ル、者アルトキハ鎮台營所後備軍司令官若クハ府縣駐在官ハ其事實ヲ取糾シ懲罰ニ該ルヘキモノハ直チニ之ヲ處分シ其罰文ト共ニ本營各部若クハ各隊長ニ交付シ刑法ニ該ルハキモノハ陸軍治罪法ニ從ヒ其處分ヲ爲スヘシ

但身分ニ依リ懲罰若クハ檢察ノ處分ヲ爲スコトヲ得サルトキ其懲罰處分ニ係ルモノハ鎮台後備軍司令官ハ鎮台司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ府縣駐在官ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ具狀シ其檢察處分ニ係ルモノハ陸軍治罪法ニ從ヒ處分スヘシ

第四十七條 第四十二條ノ准士官以上ノ届書ハ鎮台營所後備軍司令官之ヲ審查シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮台後備軍司令官

ハ鎮台司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ差出スヘシ

第四十八條 第四十二條ノ下士ノ屆書ハ府縣駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作リ各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ又第四十三條ノ兵員ノ屆書ハ郡區駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作リ府縣駐在官ヲ經テ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ差出スヘシ

第四十九條 第一充員召集ノ發令アルトキハ左ニ掲クル官衙公署等ニ於テ速ニ警報格式ヲ揭示場揭示場ナキ箇所ハ公衆ニ公示スヘシ

一 憲兵屯所同分屯所

一 警察署同分署巡查派出所

一 郡區役所

一 戶長役場

第五十條 第一充員召集候ルノ後郡區長ハ召集旅費計算書ニ原證書ヲ添ヘ殘金アレハ金庫國庫金取扱所或ハ全出張所地方廳ヲ經テ鎮臺監督部ニ送付スヘシ又ハ現金仕拂所ニ返付シ其受領證書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ鎮臺監督部ニ送付スヘシ

第五十一條 第一充員ノ爲メ召集シタル歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ解散セシムルノ手續ハ概テ第六章演習濟解散ノ例ニ準シ之ヲ行フヘシ

二 第二充員召集

第五十二條 第二充員召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十四條ニ至ル諸條及ヒ第三十六條ヨリ第五十一條ニ至ル諸條此諸條中補充隊ニ適用スヘシ

第三章 後備軍召集

第五十三條 後備軍驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ二十四時以内ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ而シテ一日行程十里詰ヲ以テ旅行シ又汽車汽船等ノ便アルモノハ里數ニ拘ハラズ之ニ依リ速ニ召集地ニ參着シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第五十四條 府縣駐在官ハ後備役兵召集ノ發令後召集名簿ヲ携ヘ速ニ召集地ニ出張スヘシ

第五十五條 後備各隊長ハ後備役兵召集ノ發令後武庫主管及ヒ鎮臺又ハ營所後備軍司令部ヨリ兵器彈藥被服ヲ受領シ之ヲ各中隊ニ配當スヘシ

第五十六條 後備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮台營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢セシメ其兵員ヲ各部各隊ニ交付スヘシ

第五十七條 各部各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ鎮台又ハ營所後備軍司令部ニ送付スヘシ

但各部ニ於テハ豫メ武器ヲ武庫主管ヨリ受領シ置クモノトス

第五十八條 召集ニ應スヘキ後備軍驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮台又ハ營所後備

軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第五十九條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集

ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第六十條 召集ニ應スヘキ後備軍驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第五十八條ノ手續ニ據リ準士官以上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十一條 召集ニ應スヘキ後備役員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第五十九條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ

召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十二條 後備軍召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第三十七條第四十條第四十一條補充隊ニ係ル事項ヲ除ク及ヒ第四十六條ヨリ第五十一條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

第四章 近衛充員召集

第六十三條 近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スル片ハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十四條 近衛充員召集ノ發令アルトキハ近衛ニ於テハ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員ヲ引率ノ爲メ士官下士若干名ヲ各軍管近衛兵集合地ニ出張セシムヘシ

但時宜ニ由リ近衛豫備役驅員ヲ引率セシムルコトアルヘシ
近衛兵集合地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ至ル驅員兵員ノ旅費金ハ近

衛ニ於テ出張ノ士官下士若クハ鎮台又ハ營所後備軍司令部ニ交付スヘシ
第六十五條 近衛豫備役驅員既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキハ鎮台營所
後備軍司令官ハ各自ノ召集令狀ヲ點檢シ然ル後東京若クハ臨時指定ノ地
ニ向テ發程セシメ戰時名簿ハ之ヲ近衛副官臨時指定ノ地ニ在テハ出張ノ
トアルモニ送附スヘシ
近衛副官部官員以下近衛副官

第六十六條 近衛歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキ
ハ鎮台營所後備軍司令官ハ後備軍副官若クハ其地ノ府縣駐在官ヲシテ各
自ノ召集令狀及ヒ手帖ヲ點檢セシメ然ル後戰時名簿ト共ニ之ヲ出張ノ近
衛士官又ハ下士若クハ引率ノ近衛豫備役驅員ニ交付スヘシ

第六十七條 近衛副官ハ近衛充員召集ノ發令後速ニ本營各部及ヒ各隊ヨリ
充員要員票ヲ受領スヘシ

第六十八條 近衛各隊長ハ近衛充員召集ノ發令後隊中ニ生兵病者犯罪者等
アルトキハ戰時名簿ヲ添ヘ速ニ之ヲ補充隊ニ移スヘシ

但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナルトキハ先ツ近衛副官部ニ交付シ
同部ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第六十九條 近衛各隊長ハ近衛充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中

隊ニ配當シ且補充隊ニ交付シ又東京外ノ地ニ於テ充員ヲ行フトキハ之ヲ
該地ニ輸送シ其手續ヲ爲スヘシ

但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナルトキ其補充隊ニ交付スヘキ武器
被服等ハ近衛副官部ニ交付シ同部ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第七十條 近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ近衛兵集合地ヨリ東京若
クハ臨時指定ノ地ニ參着スルトキハ近衛副官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ
驅員ハ其人名ヲ都督若クハ部隊ヲ統轄スル長官ニ申告シ兵員ハ其手帖ヲ
點檢シ充足要員票ニ照ラシ本營各部及ヒ各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充
隊ニ交付スヘシ

但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナル場合ニ在テ殘餘ノ兵員アルトキ
ハ出張ノ近衛副官部官員其旨ヲ部隊ヲ統轄スル長官ニ申告スヘシ

第七十一條 本營各部及ヒ各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給
シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ格納シ又東京外ノ地ニ於テ充員ヲ行フ
トキハ私服ハ出張ノ近衛副官部官員ニ交付スヘシ

但本營各部ニ於テハ豫メ武器被服ヲ近衛武庫主管及ヒ近衛各隊ヨリ受
領シ置クモノトス

第七十二條 近衛副官ハ召集ニ應シタル者ノ戰時名簿ヲ取據メ之ヲ其所屬ノ本營各部及ヒ各隊ニ送付スヘシ

第七十三條 本營各部及ヒ各隊ニ於テハ兵員受領ノ後醫官ヲシテ各自ノ身體検査ヲ爲サシメ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ戰時名簿ヲ添ヘ補充隊ニ交付シ又全ク兵役ニ堪ヘサル者ハ同名簿ヲ添ヘ近衛副官ニ交付シ同官ハ之ニ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ

但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナル場合ニ在テ本條ノ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ先ツ出張ノ近衛副官部官員ニ交付シ同官員ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第七十四條 召集ニ應スヘキ近衛豫備役驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第七十五條 召集ニ應スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書

證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第七十六條 召集ニ應スヘキ近衛豫備役驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第七十四條ノ手續ニ據リ準士官以上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向テ發程シ參着ノ上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第七十七條 召集ニ應スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第七十五條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向テ發程シ參着ノ上ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第七十八條 第七十六條及ヒ第七十七條ニ當ル者既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ第六十五條及ヒ第六十六條ノ例ニ準シ取扱フヘシ

但本條ノ場合ニ在テハ兵員ト雖モ單行セシムルヲ得

第七十九條 召集ノ期ニ後ル、者アルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ第四

十六條ノ例ニ準シ之ヲ處分スヘシ

但懲罰處分ノ者ハ其罰文ヲ近衛副官ニ送付スヘシ

第八十條 第七十四條ノ準士官以上ノ屆書ハ鎮臺營所後備軍司令官之ヲ
審査シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ近衛副官ニ送付シ
同官ハ之ヲ都督ニ差出スヘシ

第八十一條 第七十四條ノ下士ノ屆書ハ府縣駐在官之ヲ審査シ不參人名書
ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ヲ經テ近
衛副官ニ送付シ又第七十五條兵員ノ屆書ハ郡區駐在官之ヲ審査シ不參人
名書ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出スヘシ
但シ兵員不參ノ人員ハ鎮臺營所後備軍司令官ヨリ近衛副官ニ通知スヘ
シ

第八十二條 近衛充員召集竣ルノ後郡區長ハ召集旅費計算書ニ原證書ヲ添
ヘ殘金アレハ金庫國庫金取扱所或ハ同出張所地方廳ヲ經テ近衛監督部ニ
送付スヘシ
又ハ現金支拂所ニ返付シ其受領證書ヲ添ヘ

第八十三條 近衛充員召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條
第四十九條及ヒ第五十一條ニ適用スヘシ

第五章 近衛後備軍召集

第八十四條 近衛後備軍驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領収スルトキハ戶長役場
ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又
ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第八十五條 近衛後備各隊長ハ近衛後備役兵召集ノ發令後近衛武庫主管及
ヒ同副官部ヨリ兵器彈藥被服ヲ受領シ之ヲ各中隊ニ配當スヘシ

第八十六條 近衛後備軍驅員兵員既ニ近衛兵集合地ヨリ東京ニ參着スルト
キハ近衛副官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ驅員ハ其人名ヲ都督ニ申告シ兵
員ハ其手帖ヲ點檢シ各部各隊ニ交付スヘシ

第八十七條 各部各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ
各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ近衛副官部ニ送付スヘシ

但各部ニ於テハ豫メ武器ヲ近衛武庫主管ヨリ受領シ置クモノトス
第八十八條 召集ニ應スヘキ近衛後備軍驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應
シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其實事ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診
斷書ヲ添ヘ准士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所
後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出可シ

第八十九條 召集ニ應スヘキ近衛後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第九十條 召集ニ應スヘキ近衛後備軍艦員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第八十八條ノ手續ニ據リ准士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第九十一條 召集ニ應スヘキ近衛後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第八十九條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第九十二條 近衛後備軍召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第四十九條第五十一條第六十四條ヨリ第六十六條ニ至ル諸條第七十二

條第七十三條補充隊ニ係ル事項ヲ除ク及ヒ第七十八條ヨリ第八十二條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

第六章 演習召集

一 豫備役艦員兵員演習召集

第九十三條 鎮臺司令官ハ演習召集ヲ行フトキハ之ヲ營所司令官鎮臺後備軍司令官衛戍司令官其他直屬ノ各團隊各部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長北海道廳長官府縣知事並ニ警視總監ニ通知スヘシ

但營所司令官所在ノ師管ニ在テハ同司令官其取扱ヲ爲スヘシ

演習召集旅費ハ鎮臺監督部ヨリ地方廳ニ送付スヘシ

第九十四條 近衛豫備役艦員兵員演習召集ヲ行フトキハ近衛都督ヨリ之ヲ鎮臺司令官ニ通牒シ同官ハ第九十三條ノ例ニ準シ其取扱ヲ爲スヘシ

第九十五條 鎮臺營所後備軍司令官ハ第九十三條第九十四條ノ達ニ從ヒ之ヲ府縣駐在官ニ達シ同官ハ郡區駐在官ニ達スヘシ

第九十六條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ速ニ召集スヘキ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ノ演習令狀第五式中ニ演習ノ日數參集ノ期日及ヒ場所等ヲ記シ之ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第九十七條 警視廳總監ハ第九十三條第九十四條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達シ又ハ北海道廳長官府縣知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ

但北海道廳長官府縣知事ハ本條ノ達ト共ニ召集旅費ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第九十八條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ之ヲ戶長ニ達シ併ヒテ驅員兵員ノ召集旅費並ニ兵員ノ令狀ヲ送付シ又驅員ノ令狀ハ之ヲ各自ニ配達スヘシ
第九十九條 戶長ハ演習召集ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ歸休兵豫備役兵員ノ演習令狀ヲ各自ニ配達スヘシ

第一百條 歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ演習令狀ヲ領收スルトキハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

但近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ニテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ近衛兵集合地ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第一百一條 鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ驅員兵

員召集地ニ參着前召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ノ召集人名書ヲ作リ之ヲ各部各隊長ニ交付スヘシ

但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛副官ハ豫メ召集要員驅員ヲ算定シ其人員ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ通知シ同官ヨリ其人名書ノ送致ヲ受テ驅員ノ人名書ト共ニ之ヲ近衛各部各隊長ニ交付スヘシ

第一百二條 府縣駐在官ハ驅員兵員召集地ニ參着前召集名簿ヲ携ヘ同地ニ出張スヘシ

但近衛驅員兵員召集ノトキハ此限ニアラス

第一百三條 豫備役驅員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ各自ノ演習令狀ヲ引上テ其人名ヲ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ聯隊長ニ申告スヘシ

但近衛驅員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛兵集合地ニ於テ各自ノ演習令狀ヲ點檢シ然ル後該地ニ向テ發程セシムヘシ

第一百四條 歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後

備軍司令官(分營所在地ニ在テハ)ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ演習令狀ヲ引揚テ手帖ヲ點檢シ歸休兵ハ本隊ニ歸ラシメ豫備役兵員ハ之ヲ各部各隊ニ交付スヘシ

但近衛兵員ヲ東京若クハ臨時指定地ニ召集スルトキハ近衛兵集合地ニ於テ後備軍副官若クハ其地ノ府縣駐在官ヲシテ各自ノ演習令狀及ヒ手帖ヲ點檢セシメ然ル後近衛豫備役兵員若クハ上等兵ヲシテ該地ニ引率セシムヘシ

第百五條 召集ニ應スヘキ豫備役兵員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ准士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ分營所在地ニ參着スノ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

但近衛豫備役兵員ハ本條ニ準シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第百六條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷

書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書調印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

第百七條 召集ニ應スヘキ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地近衛豫備役兵員ハニ向ケ發程スヘシ若シ演習半迄ニ召集地近衛豫備役兵員ハ東京ニ參着シ難キトキハ速ニ其旨ヲ第百五條ノ手續ニ據リ届出テ命ヲ待ツヘシ

但出頭ニ及ハサル違フ受ケタルトキハ演習令狀ヲ郡區長ニ返付スヘシ
第百八條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒文ハ事故止ミタルトキハ直ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地近衛歸休兵豫備役兵員ニシテ東京若クハ臨時指定地ニ召集地近衛豫備役兵員ニ向ケ發程スヘシ若シ戶長ニ於テ役場ヨリ召集地近衛豫備役兵員ニ參着シ難キ見認ノモノハ發程ヲ差留メ速ニ其旨ヲ郡區駐在官ニ通知シ命ヲ待タシムヘシ

但出頭ニ及ハサル違フ受ケタルトキハ演習令狀ヲ戶長ニ返付スヘシ
第百九條 演習ノ爲メ召集ニ應シタル者ノ旅費ハ地方廳ニ於テ明細決算帳ヲ製シ府縣駐在官ニ移シ同官之ヲ點檢シ冊尾ニ署名押印シ然ル後更リ地

方應ヨリ鎮臺監督部ニ送付スヘシ

但近衛驅員兵員ニ係ル決算帳ハ鎮臺監督部ヨリ近衛監督部ニ送付スヘシ

第一百十條 召集ノ驅員兵員解散前ニ方リ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ各自ノ歸郷旅費ヲ計算スル爲解散地ヨリ本人郷里迄ノ里程ヲ調ヘ驅員兵員解散人名簿第六式ヲ作り之ヲ鎮臺監督部ニ移シ監督部ニ於テハ司契部ニ旅費支出ノ命ヲ下シ之ヲ各隊令糧委員ニ送付セシムヘシ

但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛副官部及ヒ同監督部並ニ中央司契部ニ於テ本條ニ準シ其取扱ヲ爲スヘシ

第一百十一條 各部各隊長ハ兵員解散前ニ於テ武器被服ヲ検査シ畢テ武器ヲ引揚ケ旅費ヲ給シ歸休兵ハ直ニ歸郷セシム其他ノ兵員ハ被服ヲ私服ト交換シ解散歸郷セシムヘシ

但驅員下士解散ノ手續モ概テ本條ニ準シ取扱フモノトス

第一百十二條 各部各隊長ハ驅員兵員解散ノ後召集人名書ニ召集中ノ缺勤罰科等ヲ記シ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ

但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊長ヨリ其人名書ヲ近衛副官ニ交付シ同官ヨリ更ニ之ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ送付スヘシ

第一百十三條 驅員下兵員ノ手帖ニハ各部各隊ニ於テ其部隊ニ編入セシ年月日缺勤罰科其他給與シタル日給又ハ歸郷ノ旅費金等總テ召集中ニ係ル事件ヲ記入スヘシ

第一百十四條 驅員兵員解散ノ際疾病其他ノ事故ニテ同時解散スルコト能ハサルモノハ其人名書ニ私服ヲ添ヘ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ

但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊ヨリ其人名書ニ私服ヲ添ヘ近衛副官ニ交付シ同官ヨリ更ニ其人名ノ各鎮臺後備軍司令官ニ通知スヘシ

第一百十五條 驅員兵員解散ノトキ輕重營倉罰期中ノ者ニシテ監獄ノ監倉ニ錮スヘキ者ハ罰文ト共ニ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ交付シ又分營ニ在テハ其地ノ營倉ニ錮シ置キ其人名ヲ同地ノ府縣駐在官ニ通知シ滿罰ノ上同官ニ交付スヘシ其禁足ニ換ヘタル者ハ本人ヲ歸郷セシメ罰文ヲ鎮

台又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ送付スヘシ
 但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各
 部各隊長ハ本條ノ手續ニ準シ罰人又ハ罰文ヲ近衛副官ニ交付スヘシ
 第一百十六條 鎮台營所後備軍司令官ハ前條ノ監倉ニ錮スヘキ者ハ之ヲ監獄
 長ニ交付シ又禁足ニ換ヘタル者ハ其罰文ヲ府縣駐在官ヲ經テ郡區駐在官
 ニ達シ同官ヨリ更ニ驅員ハ郡區長兵員ハ戶長ヲ經テ其親族ニ達セシムヘ
 シ又分營ニ在テ禁足ニ換ヘタル者ハ同地ノ府縣駐在官ヨリ本人所屬ノ府
 縣駐在官ニ通知シ且其旨ヲ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ申告スヘシ
 但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛副
 官本條ノ手續ニ準シ罰人ヲ其地ノ陸軍監獄長ニ交付シ罰文ハ各鎮台後
 備軍司令官ニ送付スヘシ
 第一百十七條 第一百十四條ニ當ル者ノ私服ハ鎮台營所後備軍司令官若クハ分
 營所在地ノ府縣駐在所ニ預リ置キ疾病快癒又ハ事故止ミタルトキ之本
 人ニ付與シ且旅費ヲ監督部ニ請求シテ本人ニ支給シ然ル後歸郷セシムヘ
 シ
 但東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタル近衛驅員兵員ニシテ第一百十四

條ニ當ル者ハ近衛副官部ニ於テ本條ニ準シ取扱ヒ尙ホ其歸郷セシメタ
 ル者ノ人名ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ通知スヘシ
 第一百十八條 解散ノトキ驅員^下兵員ニシテ疾病ニ罹リ發程スルコト能ハサ
 ル者アルトキハ全快ヲ待チ歸郷セシムヘント雖モ陸軍醫官ノ診斷書ニ據
 リ車駕料ヲ給シ歸郷セシムルコトアルヘシ
 第一百十九條 解散ヲ命セラレタル驅員兵員既ニ歸郷シタルトキハ其旨ヲ着
 後三日以内ニ第五條第六條ノ手續ニ據リ届出ヘシ
 第一百二十條 鎮臺營所後備軍司令官府縣駐在官及ヒ郡區駐在官ハ各所ノ通
 報ニ據リ召集ニ係ル驅員兵員ノ缺勤罰料等ヲ其名簿ニ記注スヘシ其近
 衛驅員ノ缺勤罰料等ハ近衛副官ニ於テ其名簿ニ記注スヘシ
 但疾病又ハ其他ノ事故ニテ召集ニ應セサル者ハ郡區駐在官ニ於テ各自
 ノ手帖ニ其事由ヲ記注スヘシ
 第一百二十一條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ演習
 召集人員表^{第七}式ヲ作リ驅員兵員解散後十日以内ニ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於
 テハ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ
 但近衛驅員兵員ニシテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタル者ノ演習

召集人員表ハ近衛副官ニ於テ作り近衛ヨリ陸軍省ニ差出スヘシ
 第二百二十二條 豫備役艦員兵員演習召集ノトキハ第二十八條第二項第三
 三十六條補充隊ニ係ル第三十九條第四十六條ヨリ第四十八條ニ至ル諸條
 第六十九條第七十條ニ係ル事項ヲ除ク第七十一條及ヒ第七十八條ヨリ第
 八十一條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

二 後備軍演習召集

第二百二十三條 後備軍艦員兵員既ニ演習令狀ヲ領収スルトキハ戸長役場ニ
 到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集ノ期日ニ其場所ニ參着シ鎮台又
 ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第二百二十四條 召集ニ應スヘキ後備軍艦員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ
 難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷
 書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮台又ハ營所後
 備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第二百二十五條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召
 集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添
 ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戸長ノ與書證印ヲ以テ郡

區駐在官ニ届出ヘシ

第二百二十六條 召集ニ應スヘキ後備軍艦員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキ
 ハ直ニ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地ニ向テ發程スヘシ若シ演習半
 迄ニ參着シ難キトキハ速ニ其旨ヲ第二百二十五條ノ手續ニ依リ届出テ命ヲ
 待ツヘシ

但出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタルトキハ演習令狀ヲ郡區長ニ返付スヘシ
 第二百二十七條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキ
 ハ直ニ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地ニ向テ發程スヘシ若シ戸長ニ
 於テ役場ヨリ召集地迄ノ里程日數ヲ算シ演習半迄ニ參着シ難キ見認ノモ
 ノハ發程ヲ差留メ速ニ其旨ヲ郡區駐在官ニ通知シ命ヲ待タシムヘシ

但出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタルトキハ演習令狀ヲ戸長ニ返付スヘシ
 第二百二十八條 後備軍演習召集ノトキハ第二十八條第二項第三
 第四十六條ヨリ第四十八條ニ至ル諸條第五十五條第五十七條第九十三條第九十五條
 ヨリ第九十九條ニ至ル諸條第一百一條ヨリ第三條三箇條トモニ至ル諸條
 第四百條分注及ヒ但及ヒ第九條ヲ適用シ又其召集シタル艦員兵員ヲ解
 散セシムルノ手續ハ概テ第十條以下諸條ノ例ニ準シ之ヲ行フヘシ

第七章 點呼召集

第二百二十九條 點呼召集ハ鎮台司令官ニ於テ其期日ヲ定メ鎮台營所後備軍司令官ニ達シハ營所司令官ヲ經テ又陸軍省ニ上申スヘシ

第二百三十條 鎮台營所後備軍司令官ハ前條ノ達ニ從ヒ府縣駐在官ヲ經テ之ヲ郡區駐在官ニ達シ又同時ニ北海道廳長官府縣知事ニ通知スヘシ

第二百三十一條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ點呼巡回日割表第八ヲ作リ府縣駐在官ヲ經テ鎮台又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ同官ノ許可ヲ得テ點呼令狀第九中ニ點呼日時及ヒ場所等ヲ記シ之ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第二百三十二條 郡區長ハ前條ノ令狀ヲ戶長ニ送付シ戶長ハ之ヲ各自ニ配達シ指定ノ場所ニ參會セシムヘシ

但點呼ノ場所ニ往復ノ旅費日當ハ官ヨリ之ヲ給セサルモノトス

第二百三十三條 點呼ヲ受クヘキ豫備役後備役兵員既ニ指定ノ場所ニ參着スルトキハ各自手帖ニ點呼令狀ヲ添ヘ郡區駐在官ニ差出スヘシ

第二百三十四條 郡區駐在官ハ便宜ノ地ヲ撰ミ兵種ヲ區別シ一列若クハ二列ニ整列セシメ點呼名簿ノ順序ニ各自ノ姓名ヲ呼ヒ終テ圈列ヲ作り明治十五年一月四日ノ勅諭並ニ讀法ヲ讀示シ又服役上ノ規則等ヲ試問スヘシ

第二百三十五條 郡區駐在官ハ前條ノ點呼竣ルノ後各自ノ手帖ニ年月日點呼濟ノ印ヲ捺シ之ヲ本人ニ返付シ然ル後解散セシムヘシ

第二百三十六條 點呼召集ノ期ニ臨ミ疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ其場所ニ參會スルコト能ハサルトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

但點呼ニ參會セサル者ノ手帖ハ本條ノ届書ト共ニ郡區駐在官ニ差出シ同官之ニ不參ノ事由ヲ記シ更ニ本人又ハ親族ニ返付スヘシ

第二百三十七條 點呼全ク竣レハ郡區駐在官ハ左ノ項目ヲ別チ點呼人員表第十式ヲ作リ點呼景況書ヲ添ヘ之ヲ府縣駐在官ニ差出スヘシ

- 一 召集ニ應シタル者
 - 二 寄留旅行等ノ者
 - 三 疾病傷瀆等ノ者
 - 四 失踪逃亡若クハ犯罪等ノ者
 - 五 徵兵令第二十條各項ニ當ル者
- 第二百三十八條 府縣駐在官ハ前條ノ報告ヲ一府縣ニ取纏メ之ヲ鎮台又ハ營

所後備軍司令官ニ差出シ同官ハ一師管ニ取纏メ之ヲ鎮台ニ差出シ鎮台ニ於テハ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ

第百三十九條 郡區駐在官ハ點呼巡廻ノ際戶長役場ニ備フル所ノ兵員名簿ヲ點檢シ又召集ニ關スル要件ハ詳細之ヲ戶長ニ示シ置クヘシ

第八章 召集準備

第百四十條 平戰兩時ノ召集ヲ容易ナラシムル爲メ準備ノ事項ヲ別チテ名簿令狀調査及ヒ雜例ノ四種トス

一 名簿

第百四十一條 充員召集ニ要スヘキ名簿ハ左ノ如シ

- 一 豫備役驅員充員名簿
 - 二 歸休兵充員名簿
 - 三 豫備役兵卒充員名簿
 - 四 豫備役雜卒充員名簿
 - 五 豫備役職工充員名簿
- 第百四十二條 後備軍召集ニ要スヘキ名簿ハ左ノ如シ
- 一 後備軍驅員召集名簿

二 後備役兵卒召集名簿

三 後備役雜卒召集名簿

四 後備役職工召集名簿

第百四十三條 定時演習召集ニ要スヘキ名簿ハ後備軍司令部條例ニ掲クル驅員兵員ノ名簿ヲ用フルモノトス

但近衛驅員兵員ニ在テハ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ヲ用フヘシ

第百四十四條 豫備役驅員充員名簿第十一ハ各兵科各部及ヒ準士官以上ト下士トニ別チ之ヲ調製スヘシ

第百四十五條 歸休兵豫備役兵員充員名簿第十二ハ各兵種ニ區別シ種類兵ニ在テハ上等兵銃卒鐵卒喇隊卒他兵ヲ別チ之ヲ調製スヘシ

第百四十六條 後備軍驅員兵員ノ召集名簿ハ第百四十四條第百四十五條ノ例ニ依リ之ヲ別チ調製スヘシ

第百四十七條 第百四十一條第百四十二條ノ名簿ハ鎮臺下ニ召集スヘキモノハ鎮台後備軍司令部ニ營所所在地ニ召集スヘキモノハ營所後備軍司令部ニ分營所在地ニ召集スヘキモノハ同地ノ府縣駐在所ニ備置クヘシ

但近衛驅員兵員ノ名簿ハ鎮台營所後備軍司令部ニ備置クヘシ

第四百十八條 府縣駐在所郡區駐在所郡區役所及ヒ戸長役場ニハ各其管轄内驅員兵員ノ名簿ヲ備置クヘシ

但本條ノ名簿ハ各召集地近衛驅員兵員ハニ區別シ調製スヘシ近衛兵集地

第四百十九條 凡ソ名簿ハ各自身上ノ異動アル毎ニ必ス筆削ヲ加ヘ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第五十條 前諸條名簿ノ外鎮台營所後備軍司令部並ニ分營所在地ノ府縣駐在所ニ於テハ戰時名簿ヲ備置クヘシ

二 令狀

第五十一條 豫備役及ヒ後備軍驅員ノ召集令狀及ヒ演習令狀ハ鎮台ニ於テ調製シ郡區駐在官ニ渡シ置クヘシ

但近衛驅員ノ令狀ハ近衛ニ於テ調製シ鎮台ニ送付シ鎮台ヨリ郡區駐在官ニ渡シ置ク可シ

第五十二條 歸休兵並ニ豫備役後備役兵員ノ召集令狀及ヒ演習令狀ハ鎮台ニ於テ調製シ演習令狀ハ郡區駐在官ニ渡シ置キ召集令狀ハ同官ヲ經テ戸長ニ渡シ置クヘシ

但近衛兵員ノ令狀ハ近衛ニ於テ調製シ鎮台ニ送付シ鎮台ニ於テハ本條

ノ例ニ據リ郡區駐在官又ハ戸長ニ渡シ置クヘシ

第五十三條 郡區駐在官ハ豫備役及ヒ後備軍驅員ノ召集令狀ヲ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ニ照較シ之ヲ其駐在所ニ備置クヘシ

第五十四條 戸長ハ兵員ノ召集令狀ヲ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ニ照較シ之ヲ其役場ニ備置クヘシ

但本條ノ令狀ハ各自身上ノ異動ヲ生スルトキハ書換ヲ要スルモノヲ除クノ外速ニ朱字ニテ之ヲ訂正スヘシ

三 調査

第五十五條 近衛鎮各台隊長ハ毎年四月二十日ニ現在スヘキ人員ニ據リ

左ノ諸項ニ當ルモノヲ除キ充員所要人員ヲ豫算シ一月二十五日迄ニ又十

一月二十日ニ現在スヘキ人員ニ據リ該所要人員ヲ豫算シ八月二十五日迄

ニ之ヲ近衛都督若クハ鎮台司令官步兵ハ旅團ニ報告スヘシ長ヲ經テ

一 生兵

二 病者

三 犯罪者

四 逃亡中ノ者

五 前諸項ニ該ル者ノ外戰列ニ加フ可ヲサル見認ノ者
第百五十六條 近衛都督ハ本營各部並ニ後備諸隊ノ人員ヲ算定シ近衛各隊長ノ報告ヲ合セ之ヲ近衛副官ニ下付スヘシ

第百五十七條 鎮台司令官ハ本營各部並ニ後備諸隊ノ人員ヲ算定シ各隊長ノ報告ヲ合セ之ヲ鎮台營所後備軍司令官ハ營所後備軍司令官ニニ下付シ又分營ニ召集スヘキ人員ハ鎮台又ハ營所後備軍司令官ヨリ同地ノ府縣駐在官ニ下付スヘシ

但豫備役及ヒ後備軍艦員人名ハ召集スヘキ鎮台營所及ヒ分營ニ別チ之ヲ下付スルコト本條ニ同シ

第百五十八條 鎮台營所後備軍司令官ハ本營各部並ニ各隊所要ノ人員ニ基キ充員名簿先着ノ順序ニ從ヒ戰時定員ニ充足スヘキモノト補充隊ニ充ツヘキモノトヲ明瞭ニ區別シ置キ若シ補充隊人員平時砲兵ハノ定員ヨリ寡少ナルトキハ入營延期ノ者又ハ補充員若クハ第一豫備徵員ヲ以テ之ヲ填補シ置クヘシ

但分營所在地ニ在テハ同地ノ府縣駐在官本條ノ事務ヲ處辨スヘシ

第百五十九條 前條ノ所要ニ充ツヘキ人員ハ別ニ規定スル所ノ豫備役兵不

應徵員見込ノ計算ニ基キ豫備役兵員ノ種類毎ニ其所要人員ノ幾分ヲ加ヘ置クヘシ

第百六十條 鎮台後備軍司令官ハ毎年四月二十日ニ現在スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役後備役兵人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分チ二月十三日迄ニ又十一月二十日ニ現在スヘキ該人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分チ九月十五日迄ニ近衛副官ニ通知スヘシ

第百六十一條 鎮台營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第百五十八條ノ事務處辨ノ後充員及ヒ後備軍所要人員豫定表第十二式ヲ作リ二月十三日及九月十五日迄ニ之ヲ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ初度ノ分ニ限

リ軍管ニ取纏メ三月十日迄ニ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ
近衛副官ハ前項ニ準シ近衛所要人員豫定表第十二式ヲ作リ初度ノ分ニ限リ近衛ヨリ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ

但補充隊人員平時砲兵ハノ定員ヨリ寡少ナルトキハ入營延期ノ者又ハ補充員若クハ第一豫備徵員ヲ以テ之ヲ填補シ置クヘシ

四 雜例

第百六十二條 鎮臺ニ於テハ豫メ鎮臺下營所及ヒ分營所在地若クハ近衛兵

集合地ニ兵員ヲ召集スヘキ場所ヲ定メ置クヘシ

但近衛兵集合地ハ別ニ之ヲ指示ス

第六十三條 鎮臺營所後備軍司令部及ヒ分營所在地ノ府縣駐在所ニ於テ

ハ豫備役後備軍驅員兵員召集ノ發令後其召集地ニ參着迄ノ日數ヲ豫定ス

ル爲召集布達兵員到着日數表第十三式ヲ作り之ヲ備置クヘシ

第六十四條 郡區役所ニ於ヒテハ充員若クハ後備軍召集ノ令ヲ戶長ニ達

スル爲メ又豫備役驅員若クハ後備軍驅員ニ召集令狀ヲ配達スル爲メ豫テ

所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ

第六十五條 郡區役所ニ於テハ毎年五月十日十一月十日調ヲ以テ其管轄

内歸休兵並ニ豫備役後備軍驅員兵員ニ要スル召集旅費ヲ計算シ召集旅費

概算表第十四式ニ通テ作り同月三十日迄ニ一通ハ地方廳ニ差出シ一通ハ金

庫國庫取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ニ送付スヘシ

第六十六條 地方廳ニ於テハ前條ノ召集旅費概算表ヲ取纏メ各郡區分ケ

ニシテ之ヲ一表ニ作り毎年六月二十日及ヒ十二月二十日迄ニ陸軍省ニ差

出スヘシ

第六十七條 戶長役場ニ於テハ充員若クハ後備軍召集ニ當リ歸休兵並ニ

豫備役後備役兵員ニ召集令狀ヲ配達スル爲メ豫テ所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ

様式ハ略ス

○訓甲第十四號(明治廿四年三月三十一日)

陸軍召集事務手續

第一章 臨時召集

第一節 郡市町村長事務通則

第二節 郡長事務

第三節 市町村長事務

第四節 警察官吏事務

第二章 演習召集

第一節 郡長事務

第二節 市町村長事務

第三節 警察官吏事務

第三章 點呼召集

第一節 郡長事務

第二節 市町村長事務

第三節 警察官吏事務

第四章 雜則

○陸軍召集事務手續

第一章 臨時召集

第一節 郡市町村長事務通則

第一條 臨時召集ノ訓令ヲ受クレハ其種類ニ由リ即時揭示場及公衆ノ最モ注目シ易キ二三ノ場所ニ警報第一様式ヲ揭示スヘシ

第二條 召集事務ハ晝夜ヲ別タスニ時間内ニ整理スヘキモノトス

第三條 召集事務ニ使用スル脚夫ハ豫メ左ノ資格アルモノヲ撰定シ置クヘシ

一 一時間ニ一里半以上ヲ歩行シ得ヘキモノナルコト

二 稍ヤ地名人名ヲ讀得ルモノナルコト

三 其書類ヲ配達スヘキ地方ノ地理ヲ踏シ居ルモノナルコト

第四條 脚夫ヲ撰定スルニハ豫メ左ノ事項ヲ示シ尙ホ平常之ヲ忘却セサル様注意セシムヘシ

一 提燈矢立及ヒ肉池ヲ持參スヘキコト

二 自身疾病等ノ片ハ相當ノ代人ヲ差立ツヘキコト

第五條 脚夫ヲ發遣スル片ハ左ノ事項ヲ言渡スヘシ

一 晝夜ノ別ナク一時間ニ一里半以上ヲ歩行スヘキコト

二 書類ヲ配達セシ片ハ必ス其受領證ヲ持歸ルヘキコト

三 令狀ハ受領者ニ交付スヘキモノナレド若シ不在ノ片ハ其家族又ハ通報人ニ交付スヘキコト

四 途中ニ於テ發病其他ノ事故ニテ歩行シ難キ片ハ相當ノ代人ヲ差立テ速ニ書類ヲ配達スヘキコト

但此場合ニ於テハ最寄市町村役場へ届出テ代人ノ雇人方ヲ依頼スルコトヲ得

第六條 脚夫ノ發着日時ハ總テ記録シ置クヘシ

第七條 召集事務ニ要スル書類ハ豫テ調製シ動文字ヲ缺キシ總テ之ヲ一函ニ封入シ執務時間外ニ於テハ宿直ヲシテ保管セシメ咄嗟ノ際差問ナキ様準備シ置クヘシ

第八條 宿直ニ於テ召集ノ訓令ヲ受クル片ハ即時ニ郡長又ハ市町村長助役

及ヒ兵事主任者ニ急報シ同時ニ豫定ノ脚夫ヲモ召喚スヘシ

第九條 電報ニテ召集ノ訓令ヲ受ケタル片ハ直ニ受領ノ旨ヲ電報スヘシ

第十條 寄留地ヨリ召集ニ應スルモノ、令狀ハ通報人ヨリ速ニ本人ニ送付セシムヘシ

第二節 郡長事務

第十一條 召集ノ訓令ヲ受ケ若クハ同旅費任拂ノ命令アリテ支給日時ヲ定

メタル片ハ即時豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ町村長ニ訓令様式第二スヘシ

但送達書様式第三ヲ添付スヘシ

第十二條 監視區長ヨリ將校全相當官下士ノ令狀ヲ受クレハ受領證用紙第四様式ヲ添ヘ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各自片ハ其家族又ハ通報人ニ配達シ受領證ヲ徴スヘシ

第十三條 前條ノ令狀ヲ受ケタルモノニシテ疾病其他ノ事故ニヨリ終ニ召集ニ應スル能ハサルモノアル片ハ其令狀ヲ返付セシメ監視區長ニ送付スヘシ

第十四條 町村ニ發スル脚夫ハ概テ每町村ニ壹名トス

第十五條 召集事務終了ノ後ハ郡内不參ノ人員及ヒ其事由等總テノ景況ハ

縣廳へ報告スヘシ

第十六條 召集員ノ區分ハ召集旅費概算表ノ調査ニ要スルモノト同一ナルニヨリ其區分ノ訓令又ハ通知ヲ受ケル片ハ充員後備軍等ヲ類別シ召集員名簿住所及ヒ兵ヲ作リ同時ニ之ヲ町村長ニ訓令又ハ通知スヘシ

但名簿ハ異動アル毎ニ訂正ヲ加フヘシ

召集區分定マル片將校下士ニカ、ルモノハ各員へ其區分ヲ通知スヘシ

第十七條 召集旅費概算表ハ現員十分ノ二ヲ加ヘ計算スヘシ

但十分ノ二ニ當ル人員ノ旅費額ハ現員中最遠ノ者ニ均シキ額ニ依ルヘシ

第十八條 豫備徵員ノ召集員トナリタル片ハ豫備兵全様ノ旅費ヲ計算スヘシ

第三節 市町村長事務

第十九條 召集ノ訓令ヲ受ケル片ハ左ノ手續ヲ執行スヘシ

- 一 兵員ノ令狀表面ニ發令ノ年月日及ヒ近衛師團ニカ、ルモノハ其裏面ニ參着日時豫テ達示スル日ヲ記入シ之ニ受領證用紙様式第四ヲ添ヘ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各自片ハ其家族又ハ通報人ニ配達シ受領證ヲ徴ス

但近衛師團兵員ノ集合地ヲ經テ直ニ召集地ニ至ルモノ、令狀裏面ニハ左ノ例ニ依リ參着地ヲ記入スヘシ尤モ參着期日ノ記入ヲ要セス
 近衛師團司令部又ハ何地大阪又ハ名古屋若クハ赤間關等臨時指定ノ地出張近衛副官部
 二 召集發令アリタルヲ知ラシムル爲メ最寄社寺ノ釣鐘ヲ撞二十分間以上カ
 シムヘシ

但四ツ切續續ケトス

第二十條 令狀ノ送達ハ可成詰合吏員ヲモ派出シテ配達セシムヘシ

第二十一條 市長ハ將校全相當官下士ノ令狀取扱方ハ第十二條第十三條調表方ハ第十七條第十八條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十二條 旅費支給日時ノ通報又ハ令達ヲ受ケタル片ハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各召集員ニ急報シ通知人名書ニ承諾ノ旨ヲ調印セシム且ツ出頭ノ際ハ實印并ニ令狀ヲ携帶スヘキ様注意セシムヘシ

第二十三條 疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ應召シ難キ兵員ノ届書第五ハ三日以内ニ取纏メ之ニ奥書證印シ監視區長ヘ送付スヘシ

但疾病ハ診斷書犯罪ハ宣告書寫又ハ通知書寫若クハ犯罪既決表寫ヲ添ヘ

失踪逃亡及ヒ拘留中ノモノハ憲兵憲兵屯所守區内ニ警察官吏ノ證認ヲ得テ差出サシムヘシ

第二十四條 前條ノ事故疾病ヲニテ應召シ難キ者ニシテ親族モ不在又ハ居所遠隔等ニヨリ届出サル片ハ其人名及ヒ事故ヲ詳記シ監視區長ヘ報告スヘシ

但證明書類ノ添付ヲ要セス

第二十五條 第二十三條ニ當ル者ノ令狀ハ届出同時ニ之ヲ繰上テ終ニ應召スル能ハサル片ハ總テ監視區長ニ送付スヘシ

第二十六條 第二十三條ノ事故止ミタルモノハ速ニ其旨ヲ届出第六同時ニ令狀ヲ交付シ更ニ出納官吏ノ所在郡役所直間稅分署所ニツキ旅費ヲ受領シ出發セシムヘシ

第二十七條 前條ノ令狀ヲ交付スルニハ其裏面ノ欄外ニ疾病快癒何事故濟何月何日發程ト記シ之ニ認印ヲ捺スヘシ

第二十八條 應召ノ下士兵員ハ豫テ告示シタル參着場所ニ到リ所管大隊區司令官近衛師團兵ニ在テハ出張員ヘ届出シムヘシ

第二十九條 下士兵員應召途中疾病又ハ風波川支其他止ムヲ得サル事故ニヨ

リ滞留シタルハ疾病ハ診斷書滯船ハ船長ノ證明書ヲ添へ其他ノ事故ハ其地ノ市町村長又ハ警察官吏ノ證認ヲ得テ參着ノ上前條同様届出様式第七ムヘシ

第三十條 前條ノ場合ニ於テ旅費欠乏シ召集地ニ達スルノ見込ナキハ其地ノ市役所若クハ町村役場へ旅費補欠ノ請求様式第九ヲナサレムヘシ
但疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘシムヘシ

第三十一條 前條ノ請求ヲ受ケタルハ一時繰替渡シ日當金貳拾貳錢但郷里其證書様式貳葉ヲ作り一ハ本人ニ渡シ所屬ノ隊ニ持參セシム一ハ疾病ノ診斷書繰替金償却請求書ヲ付シ縣廳へ差出スヘシ

第三十二條 豫テ召集ノ人名書第一第二充員後備軍等ヲ區分ヲ製シ置キ發令ノトキハ召集員名簿ニ照較シ派出ノ警察官吏ニ交付スヘシ

第三十三條 召集區分ノ通知又ハ訓令ヲ受ケタルトキハ充員後備軍等ヲ類別シ召集員名簿大字及ヒ兵種ヲ頭書スヲ調製シ異動アル毎ニ之ヲ訂正スヘシ
他市町村へ轉籍スルハ召集ノ區分ヲ通知スヘシ

召集區分定マルトキハ各兵員へ知ラシメ置クヘシ
第三十四條 召集條例第五十四條ニ依リ令狀ヲ名簿ニ照較シ異動アル毎ニ

等關ナク訂正ヲナスヘシ尤モ市町村長ニ於テ令狀ニ訂正ヲ加フルハ歸休兵ノ豫備役ニ豫備役ノ後備役ニ移ルニ限ルモノニシテ其他ハ監視區長ニ回付シテ訂正ヲ求ムヘシ
但明瞭ニ訂正スヘシ

第三十五條 第五條四項但書ノ依頼ヲ受ケタルトキハ速ニ相當ノ代人ヲ差立テ且其書類ヲ發遣セシ役所へ其趣ヲ報告スヘシ

第三十六條 召集地ニ於テ私服ヲ包藏スルノ用ニ供スル爲メ凡方三尺余ノ油紙或ハ澁紙及ヒ縣姓名ヲ記シタル木札并ニ苧繩ヲ豫テ各兵員ニ備ヘシムヘシ

第三十七條 召集事務終了ノ後ハ不參ノ人員及ヒ其事由等總テノ景況ハ市長ハ縣廳へ町村長ハ郡長へ報告スヘシ

第三十八條 召集通報人ノ宿所姓名ヲ記シ豫テ令狀ニ付箋シ置クヘシ
第三十九條 下士兵員ニシテ寄留地ヨリ召集ニ應セントスル者ハ通報人ヲ定メ大隊區司令官ニ願出シムヘシ

前項認可ヲ得タルハ旅費受領人ヲ定メ可成通報人ヲ之ニ充郡市長ニ届出シムヘシ

但市長ハ其住所氏名ヲ直間稅分署ニ通知スヘシ

第四十條 寄留地ヨリ召集ニ應スルモノハ近衛師團兵ト師團兵トニ論ナク本籍地ヨリ集地又ハ召集地迄ノ旅費額ヲ給セラル、モノト心得シムヘシ

但近衛師團兵ノ集地ヲ經ス直ニ召集地ニ至ルモノ、集地ヨリ召集地迄ノ旅費ハ近衛ニ於テ追給ス

第四十一條 第十九條二項ノ鈞鐘ハ豫テ其社寺ニ協議シ置クヘシ

第四十二條 兵員ヲシテ召集參着場所及ヒ携帶物品ヲ忘却セシメサル爲メ豫テ注意書様式ヲ調製シ置キ令狀交付ノ際ハ之ヲ同封シテ配達セシムヘシ

第四節 警察官吏事務

第四十三條 警察署長ニ於テ召集ノ訓令ヲ受クル片ハ即時所轄分署及ヒ巡查派出所ニ急報スヘシ

第四十四條 警察署長又ハ分署長ニ於テハ左ノ件々ヲ執行スヘシ

- 一 巡查ヲシテ市役所又ハ町村役場ニ就キ應召スヘキモノ、人名書ヲ受取り各自ノ家ニ至リ旅費ヲ受領セシヤ否ヲ尋問シ受領濟ノ者ニシテ

故ナク猶豫スルモノアル片ハ速ニ發途スヘキ旨ヲ督促セシムヘシ又タ近衛師團兵ハ令狀ノ裏面ニ記入シアル日時マテニ集地ニ參着スヘキ様注意ヲ加ヘシムヘシ

二 召集ニ應スヘキ軍人通行ノ沿道宿驛ニ在テハ其宿泊スヘキ軍用旅舎

ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲シムヘシ

三 河川港灣ノ要地ヘハ速ニ巡查ヲ派出シ其通行ヲ容易ナラシムヘシ

四 其筋ノ通知ニ從ヒ失踪逃亡者ヲ搜索シ或ハ違令者ニ對シ相當取調ヲナシ之ヲ召集地ニ連行キ若クハ遞送スヘシ

但陸軍刑法第七條第二項ニ該當シ檢事ニ引渡シタル片ハ其旨縣

廳警察部ヘ報告セシムヘシ

五 處務終了ノ後ハ一項ノ人名書ヲ添ヘ復命セシムヘシ

第四十五條 召集ノ發令アリタル片ハ警察署分署巡查派出所ニ於テハ第一條ニヨリ警報ヲ揭示スヘシ

第四十六條 警察署分署ニ於テハ平素其所管内ノ將校全相當官下士兵員ノ居宅及ヒ軍用旅舎ヲ知得シ置クヘシ

第四十七條 警察署長ハ郡市長ト協議シ其所管内國道縣道ノ宿驛毎ニ六軒

以內ノ軍用旅舎ヲ定メ陸軍召集軍用旅舎ト記シタル標札堅二尺五ヲ掲ケ
シムヘシ

但標札標旗標燈ハ別ニ官給ナラサルヲ以テ旅舎所有ノ國旗又ハ提燈ニ
陸軍ノ徽章召集條例ヲ付着セシメ又宿料ハ概テ十八錢三度以內ニ取極
メ置クヘシ

第四十八條 警察署長ハ召集ニ應スル軍人ノ通行スヘキ河川港灣等ノ要地
ニシテ巡查ノ出張ヲ必要トスル個所ハ郡市長ヘ協議ノ上豫テ定メ置クヘ
シ

第四十九條 召集ニ應スヘキ者ニ關シ本人又ハ親族ヨリ事實ノ證認ヲ乞フ
片ハ篤ト其實ヲ取糾シ相違ナキ片ハ之ニ證認第十二ヲ與フヘシ

第二章

演習召集

第一節

郡長事務

第五十條 演習召集ノ訓令ヲ受ケ又ハ同旅費任拂ノ命令アリテ支給日時ヲ
定メ遲滞ナク之ヲ町村長ニ訓令スヘシ

第五十一條 監視區長ヨリ令狀ノ送付ヲ受ケタル片ハ速ニ之ヲ町村長ニ送
達スヘシ

第五十二條 召集ニ關スル景況ノ報告方ハ第十五條ニヨルヘシ

第二節

市町村長事務

第五十三條 演習召集ノ訓令ヲ受ケルトキハ速ニ之ヲ各兵員本人不在ノ又
ハ通報人ニ告知シ旅行等ノモノアル片ハ其旨ヲ通知シ又ハ呼戻サシムヘ
シ

第五十四條 演習ノ令狀ヲ受ケル片ハ速ニ之ヲ各兵員本人不在ノ又ハ通報
人ニ交付シ受領證第四ヲ徴スヘシ

第五十五條 父母ノ重病又ハ死亡ノ故ヲ以テ出發シ難キモノハ期限ヲ定メ
召集延期ノ旨市町村長ノ與書證印ヲ得テ大隊區司令官ヘ願出疾病ハ醫師
添シムヘシ

第五十六條 出發ノ期ニ迫リ疾病犯罪失踪逃亡等ノ事故ニテ應召シ難キモ
ノハ遲滞ナク屆出第五様式シテ監視區長ヘ回付スヘシ
但證明書類ノ添付方ハ第三條但書ニ依ル

第五十七條 前條ノ事故止ニ應召スルモノハ速ニ出納官吏ノ所在ニツキ旅
費ヲ受領シ出發セシムヘシ

第五十八條 第五十六條ニ當リ演習央迄ニ召集地ニ參着シ難キモノ出發ニ

及ハサル通報ヲ受ケタルルハ令狀ヲ繰上ケ監視區長ニ送付スヘシ

第五十九條 不參者報告方ハ第廿四條ニ旅費補欠方ハ第三十條第卅一條ニ事務上景況ノ報告方ハ第卅七條ニ寄留地ヨリ召集ニ應スルモノ、旅費ニ關シテハ第卅九條第四十條ニ依リ途中滯留届出方ハ第廿九條ニ準スヘシ

第三節 警察官吏事務

第六十條 召集急報ハ第四十三條ニ出發督促方其他ハ第四十四條項第二項三ニ事實ノ證認方ハ第四十九條ニ依ルヘシ

第三章 點呼召集

第一節 郡長事務

第六十一條 點呼召集ノ訓令及ヒ令狀送達方ハ第五十條第五十一條ニヨルヘシ

第六十二條 點呼場ヘハ可成兵事主任者ヲ出張セシメ現況ヲ視察セシムヘシ

第二節 市町村長事務

第六十三條 點呼召集ノ告知方及ヒ令狀交付方ハ第五十三條第五十四條ニ依ルヘシ

第六十四條 疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ應シ難キモノ、届出方ハ第五十

六條ニ準シ必ス出會時限迄ニ差出サシムヘシ

第三節 警察官吏事務

第六十五條 豫備後備役ニ在ルモノ、兵籍ヲ携帶シ點呼場ニ出頭スヘシ

第六十六條 事實ノ證認方ハ第四十九條ニヨルヘシ

第四節 雜則

第六十七條 郡市役所ノ兵籍ハ毎年兩度監視區長駐劄處ノ兵籍ニ照較スヘシ

第六十八條 町村役場ノ兵籍ハ毎年兩度郡役所ノ兵籍ニ照較スヘシ

第六十九條 市町村長ハ下士兵員ノ兵籍ニ關スル異動届書ハ可成三日以内ニ監視區長ヘ發送ノ手續ヲナサシムヘシ

第一様式

警報

第五師團第一充員召集相成候事

又ハ第五師團後備役將校下士召集相成候事

又ハ第五師團後備役兵員召集相成候事

又ハ近衛師團充員召集相成候事

又、近衛師團後備軍召集相成候事
又、近衛師團後備役將校下士召集相成候事
又、近衛師團後備役兵員召集相成候事

年 月 日 午前(後)何時何十分着報

何郡役所(町役所)(警察署)(分署)(巡查派出所)

備考 厚キ白紙ヲ用ヒ警報ノ二字ハ朱ニテ大書シ飛散セサル様貼付スヘシ

第二樣式一

町村役場

何月何日第一(二)充員近衛師團充員召集發令相成候條即時召集事務手續ニヨリ諸事不都

合ナキ様取計フヘシ

年 月 日

何郡長姓名印

第二樣式二

町村役場

何月何日何時何所(場所)名ニ於テ召集旅費支給候條其旨被召集員へ即時通達スヘシ

年 月 日

何郡長姓名印

第三樣式

送達書

一第一(二)充員(近衛師團充員)召集(召集旅費支給)訓令

右送付候條領收ノ月日時刻ヲ記シ役場名下ニ取扱者ノ印ヲ捺シ直ニ本夫ニ託シテ返付スヘシ

年 月 日 午前(後)何時何十分發送

何郡役所印

年 月 日 午前(後)何時何十分領收

何町(村)役場

第四樣式

受領證

一召集(演習)令狀

右正ニ領收候也

年 月 日 午前(後)何時何十分着(時刻)ノ記入ハ召集令狀ニ限ル

豫(後)備役(歸休)

何官(兵) 姓名 印

郡(市)(町)(村)長姓名殿

備考 年月日時刻ハ受領者ニ於テ記入シ且ツ姓名ノ下ニ押印セシムヘシ

第五樣式

不參 届

山口縣郡(市)町(村)番屋敷住
何年徵兵兵種番號歸休(豫後備)兵姓名

右令般御召集相成候所病氣(處刑中)(逃亡)(失踪)(何々事件ニヨリ拘留中)ニテ應召不得
仕候ニ付別紙診斷書(宣告書)(何々)相添此段及御届候也

年月日

山口縣郡(市)町(村)番屋敷住 肩書ハ親族ヨリ
届出ル片ニ限ル
親族 姓 名 印

山口大隊區

何々監視區長姓名殿

前書之通相違無之候也

年月日

山口縣何郡(市)町(村)長 姓 名 印

第六様式

事故消滅届

山口縣郡(市)町(村)番屋敷

何年徵兵兵種番號歸休(豫後備)兵 姓 名

右邊ニ御召集ノ際病氣何々ニテ不應ノ義御届仕置候所平癒(何々)ニ付何日發足應召仕候
此段及御届候也

年月日

姓 名 印

當名奥書トモ第六様式ニ同シ

第七様式

途中滞在届

私 儀

御召集ニ應シ何月何日住地出發致候所途中何地ニ於テ病氣ニ罹リ(何々)ニテ何日間滞在
仕爲メニ延着仕候仍テ別紙診斷書(何々)相添へ此段及御届候也

山口縣郡(市)町(村)番屋敷住

何年徵兵兵種番號歸休(豫後備)兵

年月日

姓 名 印

山口大隊區司令官姓名殿

第八様式

旅費補欠請求書

私 儀

何地へ召集ヲ命セラルレ何月何日住地出發何月日常地へ着候所病氣ニ罹リ(川支ニテ通行難
致)爲メニ何日間滞在旅費欠乏致候ニ付右日數ニ對スル日常金何圓何拾何錢一時御繰替
被下度別紙診斷書相添奉願候也

山口縣郡(市町)村番屋敷住

何年徵兵兵種番號歸休(豫)後備兵

年月日

姓名印

何縣市(郡町)村(役所)場

御中

第九様式

旅費繰替渡證書

一金何圓何拾何錢

是ハ日常何錢宛何日分

山口縣郡(市町)村番屋敷住

何年徵兵兵種番號歸休(豫)後備兵 姓名

右ノ者召集ノ途次當地ニ於テ病氣ニ罹リ(川支ニテ通行ヲ留メ)何月何日ヨリ何日マテ滞在シ爲メニ旅費欠乏シ補欠請求候ニ付前書ノ金員繰替相渡候也

年月日

山口縣郡(市町)村長 姓名印

第十様式

注意書

一召集參着場所ハ廣嶋(熊本)小倉、ハ、ハ、トス

一左ノ物品ヲ失念ナク持參アルヘシ

令狀 軍隊手帖 勳章 從軍記章

適任證書 木札 芋縄 油紙又ハ澁紙

備考 參着場所ハ豫テ告示スル場所ヲ記入スヘシ

豫備徵員ニシテ召集員トナリタルモノハ令狀ヲ豫備徵員證書ト記スヘシ

勳章從軍記章適任證書等所持セサルモノハ記入スヘカラス

第十一様式

書面ノ事故相違ナキ旨ヲ證認ス

山口縣何警察署(分署)巡查派出所(巡查駐在所)詰

年月日

警部(巡查) 姓名印

○陸軍省訓令甲第七號(明治二十年六月十六日)

陸軍歸休兵並ニ豫備役後備軍艦員兵員ニシテ定時演習召集ニ際シ父母ノ重病或ハ死亡等ノ故ヲ以テ召集ノ延期ヲ願フ者ハ二週日以内延期スルコトヲ得其準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 豫備役後備軍艦員ハ後備軍司令官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ

- 一 歸休兵並ニ豫備役後備役兵員ハ兵長ノ與書證印ヲ以テ府縣駐在官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ
- 一 診斷書又ハ證明書ヲ願書ニ添ヘ差出サシム可シ
- 一 前諸項ニ掲グルモノ、外實際ノ取扱ハ鎮臺府縣ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ

○内務省訓第六十九號(明治二十五年一月廿九日)

陸軍現役滿期ノ下士兵卒ニシテ巡查看守奉職者ハ陸軍豫備後備下士兵卒服役條例第三條第三項ノ手續ヲ履キ勤務演習簡閱點呼ノ爲メノ召集免除ヲ請ヒ候様取計ハルヘシ

○警發第十九號(明治二十五年二月二十二日)

本年一月廿九日訓第六十九號ヲ以テ陸軍現役滿期ノ下士兵卒ニシテ巡查看守奉職ノ者勤務演習簡閱點呼ノ爲メノ召集免除ヲ請フヘキ旨内務大臣ヨリ訓令相成候處右内閣ヘ具狀方ハ免除ヲ請フヘキ人名職名及餘人ヲ以テ代フヘカラサル事由ヲ詳具スヘキ筈ニ有之候條兼テ御承知置相成度此段爲念及通牒候也

○訓警甲第七號(明治廿七年八月三日)

在郷陸軍々人臨時召集ノ際軍用旅舎及ヒ渡船場等注意方ニ付別紙寫ノ通陸軍次官ヨリ通牒有之候條自今特ニ留意スヘシ

陸軍省送達送甲第九百十三號(明治廿七年七月廿六日)

在郷陸軍々人臨時召集ノ際ニ於ケル警察官及ヒ地方吏員等ノ心得方ハ召集條例全説明及細務ノ要目ニ記載シアリ各府縣ニ於テモ規畫スル所ニ候得ハ召集實施ニ當リ萬不都合ハ無之義ト存候得共之ヲ實際ニ徴スルニ軍用旅舎及渡船場等ノ如キニ在テハ晝間及ヒ夜半迄ハ充分盡力スルモ夜半後ニ至リテハ晝間ノ如クナラサルモノ有之哉ニ傳聞致候之ニ反シ應召者ハ自カラ其日程アリ晝夜ノ別ナク寸刻ヲ爭フ場合ナレハ深夜旅行ヲ爲シ又ハ宿舎ニ投スルモノ可有之若シ之レ等ノ者ニ對シ注意ヲ缺クトキハ獨リ應召者ノ意向ヲ害フノミナラス當時ノ規程モ其効用ナキニ至リ可申就テハ各地方廳ニ於テ此際特ニ御注意相成候様致度及通牒候也

○訓乙第二號(明治廿五年一月十三日)

陸軍歸休兵及豫備後備役下士卒官給ノ被服並軍隊手牒等郷里ニ於テ水火災又ハ盜難ニ罹リ代品ヲ請求スル爲メ其證明ヲ請フモノアルハ盜難ハ警察署水火災ハ町村役場ニ於テ取調ヘ證明書ヲ付與スヘシ

○示警第六號(明治廿五年一月十三日)

本月十三日付訓乙第二號ヲ以テ陸軍歸休兵及豫備後備役下士卒官給ノ被服並軍隊手牒等郷里ニ於テ盜難ニ罹リタル片證明方訓令相成候ニ付其證明ヲ請フモノアル片ハ左式ニ準シ證明セラルヘシ

證明書

歸休兵(豫備役後備役) 何 某

一何々

一何々

右盜難ニ罹リタルコトヲ證明ス(盜難タル事實判明)

シタル片ノ書式

右何某ヨリ届出タル盜難品目ニ該當スルコトヲ證明ス(盜難タル事實ハ判明セサル)

モ其届出アリタル片ノ書式

某警察(分)署長

警 部 某

印

年 月 日

○陸軍省令第二十七號(明治二十八年十一月二十八日)

陸軍補充兵召集規則

第一章 總則

第一條 戰時若クハ事變ニ際シ又ハ平時ニ於テ勤務演習簡閱點呼等ノ爲メ召集スルノ方法及其ノ解散ノ取扱ハ本則中特ニ規定セルモノ、外豫備後備兵召集及解散ノ例ニ依ル

第二條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルハ其ノ服役ノ初年ニ於テスルヲ例トス

第三條 本則ニ據リ召集ニ應スル者ノ旅費ハ陸軍召集旅費支出規程第八條ニ定ムル出納官吏ニ就キ受領スヘシ

第二章 戰時若クハ事變ニ於ケル召集

第四條 第一補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ二十四時以内ニ旅費ヲ受領シ其ノ時間内ニ出發シ召集地參着ノ上ハ大隊區司令官警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官以下同シ又ハ同司令部出張員ニ届出ツヘシ但正當ノ事故ニテ二十四時ヲ經過シタルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ召集途中一日ノ行程ハ汽車路ハ二百哩海路ハ百海里陸路ハ十二里詰ヲ以テ最下限トス

第五條 近衛師團ノ召集ニ應スヘキ第一補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ近衛兵集合地ニ參着シ大隊區司令官又ハ同

司令部出張員ニ届出ツヘシ

第六條 第二補充兵ヲ召集スルニハ郡市(東京都大阪ノ三市ニ在テハ區)鳩廳吏員ヲシテ召集地又ハ近衛兵集合地迄引率セシムルモノトス

第七條 第二補充兵召集令狀ヲ領収シタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ其ノ場所ニ參着シ前條ノ引率員ニ届出ツヘシ

第八條 補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ召集ニ應シ難キトキハ本人或ハ戸主若クハ其ノ家族ヨリ二十四時間以内ニ町村長ノ與書證印ヲ以テ監視區長ニ届出ツヘシ

但疾病傷痰ノ者ハ醫師ノ診斷書其ノ他ノ者ハ憲兵或ハ警察官ノ承認書ヲ添フヘシ

第九條 召集ニ應スヘキ補充兵前條ノ事故止ミタルトキハ二十四時間以内ニ本人或ハ戸主若クハ其ノ家族ヨリ町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ツヘシ

第十條 第八條第九條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三章 平時ニ於ケル召集

第十一條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルニハ先ツ大隊區司令部所在地

若クハ便宜ノ地ニ集合シ大隊區司令部員若クハ其ノ他ノ下士兵卒ヲシテ召集地ニ引率セシムルモノトス

但召集員五人未滿ナルトキハ單行セシム

第十二條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルトキハ師團長(近衛師團長ヲ除ク)其ノ召集期日及日數ヲ地方長官ニ通知シ大隊區司令官ニ達スヘシ

第十三條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十四條 大隊區司令官第十二條ノ達ヲ受ケタルトキハ集合地及集合期日ヲ郡市長(東京都大阪ノ三市ニ在テハ區長)島司ニ通知シ郡市長島司ハ町村長戸長ヲ經テ之ヲ本人ニ達スヘシ

第十五條 第一補充兵教育ノ爲メ召集ノ達ヲ受ケタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ其ノ場所ニ參着シ第十一條ノ引率者ニ届出ツヘシ

第十六條 第一補充兵演習令狀ヲ領収シタルトキハ旅費ヲ受領シ其ノ令狀ニ記載スル期日ニ其ノ場所ニ參着シ大隊區司令官又ハ同司令部出張員ニ届出ツヘシ

第十七條 第一補充兵點呼令狀ヲ領収シタルトキハ其ノ令狀ニ記載スル期日ニ其ノ場所ニ參集シ監視區長ニ届出ツヘシ

但點呼ノ場所ニ往復ノ旅費ハ自辨トス

第十八條 第一補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ召集ニ應シ難キトキハ本人
或ハ戶主若クハ其ノ家族ヨリ召集期日迄ニ點呼ノトキハ其ノ當日(第八條
ノ例ニ依リ監視區長ニ届出ツヘン

前項ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 第一補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ第十四條ノ召集ニ應セサル
者ハ翌年之ヲ召集ス

第四章 雜則

第二十條 第二補充兵召集令狀裏面ノ記載方ハ陸軍召集條例第一樣式其二
裏面ノ例ニ依ル

第二十一條 戰時若クハ事變ニ際シ近衛師團ニ召集スヘキ補充兵ハ町村長
豫メ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第二十二條 本則施行ニ關スル細則ハ師團司令部及地方廳ニ於テ規定スヘ
シ

附 則

第二十三條 明治二十八年徵募ノ第一補充兵ニ限リ第二條ヲ適用セス

○訓乙第五號(明治廿九年三月十日)

郡役所 豐浦郡 警察署 豐浦郡赤間
ヲ除ク 關市ヲ除ク
警察分署 同上 町村役場 豐浦郡ヲ除ク

陸軍補充兵召集事務手續

第一條 郡長ハ毎年徵兵抽籤終ルノ後十五日以内ニ第一補充兵教育ノ爲メ
召集スル旅費ヲ概算シ聯隊區司令部ニ送付スルモノトス

但召集地ハ歩兵ヲ除クノ外ハ臨時指定スルモノト雖モ總テ廣嶋マテノ
里程ニ依リ算出スヘシ

第二條 町村長ハ補充兵召集ノ達シヲ受ケタルトキハ直チニ本人ノ戶籍寫
シヲ郡長ニ出シ郡長ハ之ヲ取纏メ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

但戶籍寫送付後解散マテニ戶籍面異動ヲ生シタルトキハ現役兵全樣ノ
手續キニ依リ其時々速ニ通知スヘシ

第三條 補充兵ノ召集令狀ハ聯隊區司令部ヨリ送付スルヲ以テ町村長ハ之
ヲ保管シ召集ノ達ヲ受ケタルトキハ召集地及月日等所要ノ記入ヲ爲シ本
人ニ交付スヘシ

第四條 郡吏員第二補充兵ヲ引卒シ召集地又ハ集合地ニ參着シタルトキハ

直ニ聯隊區司令官又ハ同司令部出張員ニ引渡スヘシ

第五條 本手續ニ規定スルモノ、外臨時召集ニ關スル手續キハ廿四年訓甲第十四號陸軍召集事務手續キニ準シ取扱フヘシ

○訓乙第十六號(明治廿九年七月十七日)

第五師團ト協議ノ上陸軍補充兵召集規則施行細則左之通相定候條右ニ依リ取扱フヘシ

但本年訓乙第五號ハ廢ス

陸軍補充兵召集規則施行細則

第一條 島司郡市長ハ毎年聯隊區司令官ヨリ補充兵編入ノ通知ヲ受ケタル

片ハ十五日以内ニ第一補充兵教育ノ爲メ召集スル旅費ヲ概算シ當該聯隊區司令部ニ差出スモノトス

補充兵ノ召集地ハ召集ノ時ニ至リ違ヌヘシト雖モ平常旅費概算ニ便宜ノ爲メ豫メ左ノ如ク定ム

- 廣島 山口 尾道 濱田聯隊區 廣島 松山
- 高知縣聯隊區 松山 德島 九龍聯隊區 九龍
- 但歩兵ヲ除ク外ハ凡テ廣島ヘ召集ス

第二條 聯隊區司令官ハ前條ノ概算表ヲ取纏メ之ヲ一表ニ調製シ師團長ニ差出スヘシ

第三條 聯隊區司令官ハ本規則第十二條ニ依リ教育ノ爲メ第一補充兵召集ノ達ヲ受ケタルトキハ補充兵名簿ヲ召集隊長ニ送付スヘシ

第四條 市町村長補充兵召集ノ通知ヲ受ケタル片ハ直チニ本人ノ戶籍寫ヲ當該郡長ニ送付シ郡長ハ之ヲ取纏メ(市ニ在ツテハ直接ニ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ヲ召集隊ヘ送付スヘシ)

戶籍寫送付後解散迄ニ戶籍面ニ異動ヲ生シタル片ハ現役兵同様其時々通知スルモノトス

第五條 補充兵ノ召集令狀ハ聯隊區司令部ニ於テ調製シ市町村役場ヘ備置クモノトス

第六條 補充兵ノ戰時名簿ハ召集隊ニ於テ調製スルモノトス

第七條 規則第十一條ノ引率員ハ徵兵事務條例施行細則第三十三條ニ依ルモノトス

但シ集合地ハ聯隊區司令官ニ於テ便宜ノ地ヲ撰定シ豫メ之ヲ嶋司郡市長ニ通知置クヘシ

明治二十八年三月七日陸軍省訓令第一號ヲ以テ國民兵召集事務準則發布

第八條 郡市吏員第二補充兵ヲ引率シ召集地ニ參着シタルトキハ直ニ聯隊區司令官或ハ同司令部出張員ヘ引渡スモノトス

第九條 第二補充兵參着期日ハ發令當日ヨリ起算シ第十二日目トス

○陸軍省令第二號(明治廿八年)二月一日

國民兵召集規則

第一章 總則

第一條 國民兵召集ヲ別テ左之四種トス

第一種 陸軍ニ於テ軍事教育ヲ受ケタル者

第二種 滿廿一歲以上廿六歲未滿ニシテ陸軍豫備徵員タリシ者

第三種 滿廿六歲以上三十歲未滿ニシテ陸軍豫備徵員タリシ者

第四種 前三種ニ屬セサル者

第二條 各種ノ國民兵召集ハ各種同時若クハ各別ニ之ヲ行ヒ又ハ一部ノ地方ヲ限リ之ヲ行フヲ得

第三條 各種ノ國民兵ハ年齡若キモノヨリ之ヲ召集スルヲ例トス

年齡十七歲以上二十歲迄ノ國民兵ハ特別ノ命令アルニ非ラサレハ之ヲ召集セズ

第四條 本規則ニ於テ郡ト稱スルハ市 東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區 及島廳ヲ置キタル嶋嶼ヲ包含ス

第五條 本規則ニ於テ師團長ト稱スルハ近衛師團長ヲ包含セス又警備隊區ニ在テハ同司令官ハ聯隊區司令官、島司ハ郡長、市長、東京京都大阪ノ三市ハ郡長及町村長、戶長ハ町村長ノ職務ヲ行フ

第六條 戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官國民兵ノ召集ヲ行フ場合ニ在テ師團長ニアラサル司令官ハ其召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第二章 召集

第七條 師團長國民兵召集令ヲ下スルハ之ト同時ニ召集ノ種類所要ノ人員及ヒ召集地ヲ定メ旅團長ヲ經テ聯隊區司令官ニ達シ又地方長官ニ通知ス

師團長所要ノ人員ヲ定ムルニハ召集區域中召集ノ種類毎ニ其總員 不應召 込數ヲ省キ 率トシ比例ヲ以テ之ヲ各聯隊區ニ配賦ス

但配賦人員ニハ檢査不合格見込人員凡十分ノ一ヲ加算スルモノトス

第八條 聯隊區司令官前條ノ達ヲ受クレハ各部ニ配賦スヘキ人員召集地及應召員ノ一旦集合スヘキ地點并ニ其集合期日ヲ定メ之ヲ郡長ニ通達ス聯

隊區司令官召集人員ヲ定ルニハ聯隊區中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ
比例ヲ以テ之ヲ各部ニ配賦ス

聯隊區司令官ハ各部ノ應召員并ニ其ノ召集地到着ノ時日ヲ豫定シ之ヲ旅
團長ヲ經テ師團長ニ報告スヘシ

第九條 郡長ハ地方長官ヨリ國民兵召集令ヲ受領シ聯隊區司令官ヨリ前條
第一項ノ通達ヲ受クルルハ召集令召集スヘキ人員召集地集合地及集合期
日ヲ町村長ニ通達シ且集合地ニハ吏員ヲ派遣スヘシ

郡長召集人員ヲ定ムルニハ郡中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以
テ之ヲ各町村ニ配賦ス

第十條 町村長前條ノ達ヲ受タル時ハ其配賦人員ニ應シ第一様式ノ召集令
傳達書ヲ作り之ヲ國民兵中召集スル種類ニ相當スルモノ、内年齢若キ者
ヨリ逐次ニ之ヲ交付シ配賦人員ニ充タシメ然ル後集合地ニ至リ派遣ノ郡
吏員ニ第二様式ノ應召員連名簿二通ヲ附シテ應召員ヲ交付スヘシ此名簿
ニハ其町村ニ在籍スル國民兵中召集令傳達書ヲ交付シタル總テノ人名ヲ
掲ケ不應召員ハ其事由ヲ記シ第十二條ノ書類ヲ添フヘシ

第十一條 召集傳達書ヲ受ケタル國民兵ハ町村長ノ指示ニ從ヒ該傳達書ヲ

携帶シ發途スヘシ

第十二條 正當ノ事故ニ因リ召集ニ應シ難キ者ハ本人或ハ戶主若クハ其家
族ヨリ廿四時間以内ニ町村長ニ届出可シ

但其事故傷痰疾病ニ係ルハ醫師ノ診斷書ヲ其他ハ憲兵或ハ警察官ノ
承認書ヲ添フヘシ

前項ニ違背シタル者ハ五十錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五
日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十三條 郡吏員集合地ニ至レハ町村長ヨリ受領セン連名簿ヲ聯隊區司令
官或ハ聯隊區司令部出張員ニ差出ヘシ

第十四條 應召員集合地ニ到着スレハ聯隊區司令官或ハ聯隊區司令部出張
員身體検査ヲ爲サンノ合格不合格ヲ召集令傳達書并ニ連名簿ニ記入シ連
名簿一通ハ之ヲ郡吏員ニ傳達書ハ之ヲ本人ニ返附シ其合格者ハ郡吏員ヲ
シテ召集地ニ引率センノ不合格者ハ直ニ歸郷セシムヘシ

但身體検査ハ最寄衛戍地ノ在職軍醫若クハ地方醫師ヲシテ之ヲ行ハシ

第十五條 郡吏員應召員ヲ引率シ召集地ニ到着シタルハ連名簿ト共ニ之

ヲ國民兵受領員ニ交付スヘシ

第十六條 召集地ニ於ケル國民兵受領員ハ師團長適宜ニ之ヲ編成スヘシ

第十七條 召集令傳達書ハ應召員ヨリ編入セラレタル部隊ニ差出スモノトス

第十八條 陸軍召集條例第二章中本則ニ矛盾セサルモノハ之ヲ準用ス

第三章 旅費支給

第十九條 第一種國民兵居住地ヨリ集合地迄ノ旅費ハ陸軍召集旅費支出規程ニ依リ支給ス

但平時豫メ計畫シ置ク所ノ要員ニ加ヘサルモノニ係ル旅費ハ第二項ノ例ニ依ル

第二第三第四種國民兵居住地ヨリ集合地迄ノ旅費ハ當該監督部長陸軍大臣ノ命令及師團長ノ請求ニ依リ陸軍召集旅費支出規程ニ定ムル所ノ出納官吏ニ送付シ該出納官吏之ヲ應召員ニ交付ス

其集合地ヨリ召集地迄ノ旅費及檢査不合格者ノ歸郷旅費ハ大隊區司令部ノ出納官吏ニ送付シ該出納官吏之ヲ本人ニ交付ス

第二十條 國民兵召集旅費ハ陸軍給與令第三十七表ノ額ニ依ル

第廿一條 志願ニ依リ國民軍ノ幹部ニ充テラレタル者ハ前條ノ例ニ依リ編成地ニ於テ旅費ヲ給ス

第四章 雜則

第廿二條 第六條ノ場合ニ在テ前諸條ノ規定ニ依リ難キ時ハ司令官必要ニ應リ適宜處置スルヲ得

第廿三條 後備軍召集ニ應セサル在郷軍人ニシテ國民兵ト共ニ召集セラル、時ハ其召集手續ハ本規則ニ依リ施行スルヲ得

(様式略ス)

○訓甲第十二號(明治廿八年三月三十日)

國民兵召集事務手續

準備

第一條 市町村長ハ毎年四月一日現在スヘキ國民兵ヲ豫定シ二月十日迄ニ別紙一號離形ニ依リ召集名簿ヲ製シ其役所役場ニ備フヘシ

但第一種第二種ニ属スル者ニ限ル

町村長ハ前項ニ依リ別ニ一本ヲ製シ全月十五日迄ニ那役所ニ出スヘキモノトス

第二條 町村長ハ第三種第四種ニ属スル者(二十歳以下ノ者ヲ除ク)ノ四月一日現在スヘキ人員ヲ豫定シ別紙二號雛形ニ依リ製表シ第一條第二項ノ名簿ト共ニ郡長ニ出スヘシ

第三條 郡長ハ町村長ヨリ出セシ第一條名簿ヲ其役所ニ備フヘシ

第四條 郡長ハ町村長ヨリ出セシ第二條ノ人員表及第三條ノ名簿ヲ調査シ別紙二三號雛形ニ依リ人員表二通ヲ製シ一通ハ三月五日迄ニ大隊區司令部ニ送付シ一通ハ其役所ヘ備ヘ置クヘシ

市長ハ第一條ノ名簿及第二條ノ手續ニ依リ人員表二通ヲ製シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 郡市長ハ第四條ノ人員ニ基キ別紙四號雛形ニ依リ旅費概算表ヲ製シ第四條ノ人員表ト共ニ大隊區司令部ニ送付スヘシ

但集合地ハ大隊區司令官臨時指定スヘシトイヘトモ山口大隊區ニ係ルモノハ岩國小倉大隊區ニ係ルモノハ小倉ト假定シ算出スヘシ

兵ノ一日行程ハ陸路十二里汽車路二百哩海路百海里ヲ以テ算スヘシ

第六條 第一條ノ名簿ハ召集規則ハ第一條ノ種別ニ依リ第一種第二種ハ別簿ト爲シ年齢若キ者ヨリ登記スヘシ

但第一種名簿ハ將校同當官准士官及元下士兵卒職工并ニ各兵科各部ニ區分スルヲ要ス

第七條 第一種第四種ニ属スル者ハ其年一月ヨリ十二月迄ニ該年齢ニ當ル者第二種及第三種ニ属スル者ハ召集年度ノ十二月ヲ以テ算スヘシ

但四十歳一ヶ月以上ニ達スル者ハ應召ノ義務ナシ

第八條 後備軍召集殘員ハ召集名簿及召集同人員表ニ加入スヘシ

但軍事教育ヲ受ケタル者ハ第一種ニ未教育者ハ第四種ニ加フヘシ

第九條 退役准士官以上及元下士以下ノ者ニシテ國民兵編入ノ許可ヲ受ケタルモノハ第一種ニ属スルモノトシ調査スヘシ

第十條 六週間現役滿期ノ者ハ第四種ニ属スルモノトシ調査スヘシ

第十一條 海軍退役准士官以上ノ者及海軍豫備徵員又ハ補充兵タリシ者ニシテ國民兵中ノ者ハ第四種ヘ加ヘ調査スヘシ

第十二條 市町村長ハ召集名簿ニ關スル異動ハ速ニ訂正加除シ之ヲ毎月末一纏トナシ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ大隊區司令部ニ報告スヘシ

第十三條 召集規則第十條ノ召集令傳達書ハ小杉紙ノ如キ硬質ノ罫紙ヲ用ヒ豫テ不動文字ヲ記入シ置キ發令ニ方リ差支ナキ様準備スヘシ

召集

第十四條 郡長ニ於テ召集規則第九條ノ人員ヲ配賦スルニ當リ本手續第九條ニ相當スル者ハ配賦人員及其率トナスヘキ總員ニ加フヘシ

第十五條 市町村長召集ノ達ヲ受クレハ召集令傳達書ニ召集地集合地參集月日等ヲ記入シ直ニ各兵ニ交付スヘシ

但配賦人員ヲ充足シ得ル限リハ左ノ各項ニ當ル者ニ交付ス可ラス萬一不足スル場合ニ於テハ差支尠キ者ヨリ交付スヘシ

- 一 官吏(備員モ含ム)
- 一 教員
- 一 公吏(市町村役場書記モ含ム)
- 一 議員

召集令傳達書ヲ交付シタルトキハ受書ヲ徴スヘシ

第十六條 警報揭示召集下達方其他此手續ニ示サ、ルモノハ陸軍召集事務手續ニ準シ取扱フ可シ

第十七條 事故アリ應召シ難キ者ハ別紙第五號雛形ニ依リ届出シムヘシ

第十八條 疾病犯罪逃亡等ニ由リ召集ニ應シ難キ者ニシテ親族等モナク何

等届出ヲナサ、ル者アルトキハ市町村長ニ於テ其人名事由ヲ記シ連名簿ニ添ヘ、集合地ニ於テ市長ハ大隊區司令官ニ町村長ハ郡吏員ニ郡吏員ハ大隊區司令官ニ報告スヘシ

第十九條 召集規則第十條ノ連名簿ハ該書式ニ示スモノ、外左ノ諸項ニ依リ記載スヘシ

- 一 上欄々外ニ居住地ヨリ集合地迄ノ里程ヲ記スヘシ
- 一 豫備徵員并補充兵タリシ者ノ兵種職業及第四種國民兵ノ職業兼業トモヲ摘要區畫ニ記入スヘシ
- 一 既教育者ニシテ適任證書又ハ卒業證書ヲ所持スルモノハ左ノ通摘要區畫ニ併記スヘシ
- 一 士官適任者ハ(士適)
- 一 下士適任者ハ(下適)
- 一 郡吏部下士適任者ハ(軍下適)
- 一 衛生部下士適任者ハ(衛下適)
- 一 擔架術卒業者ハ(担卒)
- 一 蹄鐵術卒業者ハ(蹄卒)

第二十條 出納官吏國民兵召集旅費ノ前渡ヲ受ケタルトキハ速ニ交付期日ヲ定メ市町村長ニ報告シ充員召集旅費支給場所ニ於テ各兵ニ交付スヘシ但國民兵ノ幹部ニ充ラレ師團ノ直達ヲ受クルモノ、旅費ハ編成部隊ニ於テ支給スルモノニ付交付ニ及ハス

交付ノ上ハ召集令傳達書中ニ交付月日ヲ記入シ署名捺印シテ各兵ニ返付スヘシ

第廿一條 事故届出ヲ爲サ、ルモノハ市町村長ニ於テ速ニ告發スヘシ

第廿二條 郡市長ハ召集事務終了ノトキハ其概況ヲ知事ニ報告スヘシ

第廿三條 不應者ニシテ其事故止ミタル片ハ其旨ヲ市町村長ニ届出シムヘシ

町村長ハ郡長ニ郡市長ハ之ヲ大隊區司令官ニ通報スヘシ

第廿四條 事故止ミタル者ニシテ召集ノ命アリタルトキハ單獨召集地ニ至リ其地大隊區司令官ニ届出シムヘシ

雜

第廿五條 國民兵召集年度ハ毎年四月一日ヨリ起リ翌年三月盡日ニ終ハルモノトス

第廿六條 國民兵編入志願ノ者ハ年限ヲ定メ住所官姓名誕生年月日ヲ記シ

市町村長ヲ經テ元下士以下ノ者ニ在テハ大隊區司令官准士官以上ノ者ニ在テハ大隊區司令官ヲ經テ旅團長ニ願出セシムヘキモノトス

但師管内在籍者ニ限ル

第廿七條 他郡市へ轉籍スル者アルトキハ元籍郡市長ヨリ轉籍地郡市長へ國民兵名簿ヲ送付スヘシ

第廿八條 召集名簿摘要内へ應召不應又ハ不合格等ノ顛末ヲ記入シ置クヘシ

第廿九條 此手續中召集名簿トアルハ國民兵召集名簿ヲ指シ召集規則トアルハ國民兵召集規則ヲ指シ第一種第二種第三種第四種トアルハ國民兵召集規則第一種第一種第二種第三種第四種ヲ指ス

(附錄雛形略ス)

○縣令第三十九號(明治廿四年七月一日)

馬籍規則

第一條 馬籍ハ徵發ニ應スル準備ノ爲メ市町村役場ニ備フルモノトス

第二條 馬籍ハ甲乙ノ二種ニ分チ左ニ掲クルモノヲ甲籍ニ其他ノモノヲ乙

籍ニ登記スヘシ

但登記方ハ別紙第一書式ニ依ルヘシ

- 一 年齢四歳以上ニシテ体質健康ノ乗馬及耕馬
- 一 身幹四尺五寸曲尺以下全以上ニシテ年齢体質共前項ニ同シキ駕馬
- 一 凡重量三拾貫目以上ヲ負擔シ得ル駄馬

第三條 左ノ各項ニ當ルモノハ其日ヨリ十日以内ニ別紙第二書式ニ依リ市町村長ニ届出ツヘシ

但相續ニヨリ讓受ケタル片ハ第四條ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 馬匹以下全ヲ買得シタル片
- 二 馬匹ヲ讓受ケタル片
- 三 馬匹ヲ交換シタル片
- 四 駒ヲ分娩シタル片
- 五 馬匹ヲ所有シテ他市町村ヨリ入籍シタル片

第四條 馬匹ニ關シ左ニ掲ケル異動ヲ生スル片ハ第八項ハ其前日迄ニ他ノ各項ハ異動ノ日ヨリ十日以内ニ別紙第三書式ニ依リ市町村長ニ届出ツヘシ

一 他人ニ賣渡若クハ交換若クハ讓與シタル片

二 相續ニ依リ讓受ケタル片

三 斃死若クハ屠殺シタル片

四 盜難ニ罹リ若クハ逸失シ若クハ廢疾不具トナリタル片

五 逸失セシモノ發見シ若クハ盜難ニ罹リシモノ返還ヲ得タル片

六 使用ノ名稱ヲ變換シタル片

七 所有者居住ノ大字ヲ轉シタル片

八 所有者他市町村ヘ轉籍セントスル片

九 所有者改姓名ヲナシタル片

十 駕馬ニシテ身幹四尺五寸未滿ノモノ四尺五寸以上ニ達シタル片

第五條 市町村長ニ於テ第三條第四條ノ届書ヲ領スル片ハ速ニ馬籍ヲ加除訂正スヘシ

第六條 市町村長ハ馬籍ニ據リ前月末日調ヲ以テ別紙第四書式ニ依リ馬匹表ヲ製シ一月四月七月十月ノ各月十日迄ニ郡長ニ報告スヘシ

第七條 市町村長ハ毎年二月八月ノ兩度ニ於テ馬匹ヲ實檢シ之ヲ馬籍ニ照較シ差違誤謬等ヲ發見セハ速ニ届出ヲナサシメ之ヲ訂正スヘシ

但本人ノ届出ヲ要セサルモノハ直ニ訂正ヲ加フヘシ
 第八條 郡長ハ隨時適宜ノ方法ニヨリ馬匹ヲ實查シ馬籍ノ確實ヲ保タシムヘシ
 第九條 郡市町村吏員ハ師團若クハ當廳官吏ノ馬籍實查ニ際シ立會ヲ求ムルルハ之ニ應スヘシ

第十條 馬匹賣買商ニ於テ轉賣ノ爲メ一時飼養スルモノハ本則ヲ適用セス
 第十一條 第三條第四條ニ違背シ届出ヲ爲サ、ルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十二條 本則ハ明治廿四年九月一日ヨリ施行ス

但當時馬匹ヲ所有スルモノハ全月十五日迄ニ別紙第二書式ニ依リ届出ツヘシ

第一書式 用紙美濃紙半面

所有者		郡市町村大字町村		何 某	
役種	乘(駕)(駄)(耕用)(目的)	毛色	何色	性	柔順(猛悍)(何々ノ癖アリ)
性種	牡(牝)内(外)國種(第何回雜種)	身丈	何尺何寸何分	體質	
生年月	年號年月				

產地	何國何地	體質	健康(跛足)(失明)(何々)
取得	年月日買得(讓受)(交換)(自家分娩)	代價	買入(見積)代金何拾何圓
届出	年月日	第何師團迄ノ里程	何拾何里何十何丁
備考			

- 一 使役ニ堪ヘサル駒ハ使用ノ目的ヲ記スヘシ
 - 一 生年月ノ不詳ナルモノハ單ニ生年ヲ記シ其由ヲ備考ニ掲クヘシ
 - 一 現時ノ役種ト異ナリタル役種ニ使用セシアルモノハ會テ何用ニ供セシモノト併記スヘシ
 - 一 異動ハ其右側ニ米記シ猶ホ其届出ノ月日ヲ備考ニ米記スヘシ
 - 一 甲乙兩種トモ別綴トナスヘシ
 - 一 記載ノ順序ハ大字繼メニスヘシ
 - 一 雜種ノ回数詳カナラサルモノハ單ニ雜種トシ其旨ヲ備考ニ掲クヘシ
 - 一 乙籍ニ登記スヘキモノハ里程ノ記入ヲ要セス
- 第二書式 馬匹買得(讓受)(交換)(分娩)(所有)届 用紙半紙野紙
 一 乘(駕)(駄)(耕用)(目的)

一 牲(牝)内(外)國種(第何回雜種)
 一年號年月日生
 一 何國何地産
 一年號年月日買得(讓受)(交換)(自家分婉)
 一 何色
 一 身丈何尺何寸何分
 一 性質柔順(猛悍)(何々ノ癖アリ)
 一 体質健康(跛足)(失明)(何々)
 一 重量凡三拾貫目以上ヲ負擔シ得(得サルモノ)
 一 買入(見積)代金何拾何圓

右 年號年月日買得(讓受)(交換)(分娩)致候
 私所有ノ處私儀ハ年號年月日縣郡市町村ヨリ當町村何字へ入籍致候此段及御届候也

何郡市町村大字何々住
 年號年月日
 市町村長姓名殿
 備考 一 使役ニ堪ヘサルモノハ使役ノ目的ヲ記シ又會テ他用ニ供セシモノハ會テ何用ニ

姓 名 印

供セシ旨ヲ併記スヘシ
 一 生年月ノ不詳ナルモノハ生年ノミヲ記シ月日不詳ト記スヘシ
 一 雜種ノ回數詳カナラサルモノハ單ニ雜種ト記スヘシ
 一 見積代金ヲ記スルハ買入代金不詳ナルカ又ハ買入レサルモノニ限ル
 一 重量ノ項ハ駄馬ニ限リ記載スヘシ

第三書式 馬匹異動届

一 乘(駕)(駄)(耕)馬(用目的ノ駒)
 一 牡(牝)

郡市町村何某へ讓渡
 逸失(斃死)(盜難ニ罹リ)(癱疾又ハ不具ト
 相成)(屠殺)
 郡市町村何字へ轉籍致(致度)
 私何某ト改姓名致
 身丈何尺何寸何分ニ相違

右 拙者所有ノ處年月日
 拙者所有ニテ是迄乘(駕)(駄)(耕)用ニ使用候處當度駕(駄)(耕)(乘)用ニ變換致
 年號年月日逸失(盜難ニ罹リ)候旨御届致置候處年月日發見(返還)
 先戶主誰所有ノ所年月日拙者相續ニヨリ讓受
 候ニ付此段及御届候也

住所當名共ニ號式ニ全シ

第四書式

旅費交附時日證票ハ實際ノ旅費ヲ交附シタル時日ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニシテ島司郡長及市ノ收稅署長ハ各自ニ旅費ヲ交附スルト同時ニ該票ニ其月日時ヲ記入スヘキモノトス

第八條 豫備役後備役下士卒他ノ島郡區市ニ轉籍シタルトキ及海軍省令第六號ノ許可ヲ得タルトキハ其者ノ召集令狀及旅費交附時日證票等ハ其都度速ニ之ヲ轉籍若クハ應召地ノ島郡區市役所ニ轉送スヘシ

第九條 北海道廳及各府縣ニ於テハ召集ニ應スル豫備役後備役下士卒休泊ノ爲メニ豫メ鎮守府ニ至ル沿道便宜ノ地ニ於テ海軍軍用旅舍ヲ選定シ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ

但本條ノ旅舍ヲ撰定スルハ約束ヲ以テ定ムルモノトス

第十條 豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參着スルトキ之ニ被服食器ヲ給與シ私服ヲ格納シ補充隊ヲ編制シ又ハ直ニ兵員ヲ要スル艦船隊廳ニ勤務ヲ命スル等ノ方法ハ豫メ鎮守府ニ於テ之ヲ定メ事ニ當テ混雜ノ憂ナキヲ期スヘシ

第十一條 臨時召集ニ關セル達文通知書等 第十三條第十 各當事者ニ於テ豫メ簡明ナル文案(電報案共)ヲ定メ且成ルヘク之ヲ關係ノ官廳役場等ニ通

知シ置クヘシ

第十二條 島郡區市役所ニ於テハ管地内在籍ノ豫備役若クハ後備役下士卒ノ人員地形等ニ應シ召集狀ヲ配達スルニ最モ便宜且迅速ナル方法ヲ豫定シ置クヘシ

第三章 召集手續

第十三條 豫備役若クハ後備役下士卒臨時召集ノ令アリタルトキハ鎮守府司令長官ハ之ヲ其部下ニ達シ且同時ニ北海道廳長官府縣知事憲兵司令官東京外ニ於テハ憲警視總監大審院長控訴院長地方裁判所長檢事總長檢事長及檢事正ニ通知スヘシ

第十四條 北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ通知ニ從ヒ之ヲ嶋司郡區市長及警察署長ニ達シ警視總監ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達スヘシ

第十五條 憲兵司令官ハ第十三條ノ通知警察署長ハ第十四條ノ達ニ從ヒ各部下ノ憲兵警部巡查ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ

但憲兵隊ヲ置ケル府縣ニ於テハ憲兵主トシテ之ヲ擔當シ警部巡查ハ之ヲ補助シ憲兵隊ヲ置カサル府縣ニ於テハ警部巡查專ラ之ヲ擔任スヘシ
一 召集ニ應スヘキ各豫備役若クハ後備役下士卒ノ家ニ到リ遲滯ナク發

足センヤ否ヤヲ調査シ若シ故ナク猶豫スル者アルトキハ速ニ發足ヲ督促スルコト

二 船舶所有主ノ家若クハ會社等ニ到リ港内碇泊ノ船舶乗組員中ニ豫備役若クハ後備役下士卒ノ有無ヲ質シ若シ其ノ之レ有ルヲ知ラバ其船舶ニ到リ之ヲ發足ヲ督促スルコト

三 豫定ノ海軍軍用旅舎ニ到リ海軍軍用旅舎ト記シテ表出セシムルコト
四 鎮守府ニ到ル沿道ニ於ケル渡船場停車場及波止場等ニ出張シテ旅行ノ便宜ヲ與フルコト

五 旅費支給ノ場所ニ出張シ吏員ヲ補助シテ混雜ヲ制スルコト
六 憲兵屯所同分屯所警察署同分署巡查派出所其外公衆ノ注目シ易キ場所ニ警報第五ヲ揭示スルコト

第十六條 島司郡長ハ第十四條ノ達ニ從ヒ之ヲ町村長ニ達シ且召集令狀中ニ年月日旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲ記入シ之ヲ各自ニ配達シ其領收證ヲ徵スヘシ

區長及市長ハ同條ノ達ニ從ヒ召集令狀中ニ年月日ヲ記入シ且其市ノ收稅署長府縣知事ニ於テ定メタル者ト協議シ旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲ

モ記入シ區長及市長ハ此ノ時又其保管セル旅費之ヲ各自ニ配達シ其領收證ヲ徵スヘシ
交附時日證票ヲ收稅署長ニ交附スヘシ

本條ノ召集令狀ヲ配達スルニ當テ本人其家ニ在ラサルトキハ其家族親族若クハ召集通報人ニ之ヲ交附シテ其領收證ヲ徵スヘシ

島廳郡區市役所町村役場ニ於テモ召集發令ニ從ヒ其揭示場ニ之カ警報様式ヲ掲クヘシ

第十七條 召集令狀ノ領收證ハ島司郡區市長ハ之ヲ纏ノ務メテ速ニ海兵團長ニ送付スヘシ

第十八條 豫備役若クハ後備役下士卒既ニ召集令狀ヲ領收セシトキハ二十四時間以内ニ發足シ旅費支給ヲ始ムル令狀ノ裏面ニ於テ指示サレタル旅費支給場所ニ至リテ旅費及旅費交附時日證票ヲ受領シ一日行程少クトモ十二里詰沿道ニ汽車汽船ノ便アル者ハヲ以テ旅行シ本籍海兵團ニ參着シ召集令狀履歴表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

召集地ニ到ルノ途中汽車汽船ニ事故アリ若クハ疾病川支等ノ爲メニ旅行ノ延滞ヲ生シタルトキハ其事由ト延滞セル時日ヲ記シ疾病ナレハ醫師ノ診斷書汽車ノ事故ナレハ驛長若クハ會社汽船ノ事故ナレハ船長事務長若クハ會社川支等

ナレハ其地ノ憲兵警察官島司郡區市長若クハ町村長ノ證印ヲ受テ參着ノトキ之ヲ海軍團長ニ差出スヘシ

第十九條 豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參着シタルトキハ海兵團長ハ其召集令狀ヲ引揚ケ履歴表ヲ點檢シ身體ヲ検査シ終テ之ニ被服食器ヲ給シ私服ヲ格納シ或ハ之ヲ補充隊ニ編制シ或ハ所要ノ艦船隊應ニ勤務ヲ命スル等鎮守府司令長官ニ於テ豫定メタル方法ニヨリ處分スヘシ

但身體検査ニ於テ到底兵役ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ其兵役ヲ免シ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ

第二十條 召集令狀配達ヲ受クルトキ豫備役若クハ後備役下士卒犯罪失踪旅行寄留等ニテ家ニ在ラヌ二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應セシムル能ハサル者ハ家族親族若クハ召集通報人其ノ事由ヲ詳記シ憲兵憲兵隊ヲ府縣ニ於テノ證認及市町村長ノ與書證印ヲ受テ島司郡區市長ヲ經テ海兵團長ニ届出ツヘシ其召集令狀受領後逃亡セル者アルトキモ亦同シ

本條ニ當ル下士卒ノ召集令狀ハ前項ノ届書ヲ差出ストキ之ヲ島司郡區市長ニ返附スヘシ

第二十一條 豫備役若クハ後備役下士卒召集令狀ヲ受領セルトキ傷疾疾病

若クハ病後ニテ二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應スル能ハサルトキハ其ノ届書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受テ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡區市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ届出テ且其召集令狀ヲ島司郡區市長ニ返附スヘシ

第二十二條 第二十條及第二十一條ノ豫備役若クハ後備役下士卒傷疾疾病快復若クハ犯罪旅行等ノ事故止ミタルトキハ速ニ嶋嶼郡區市役所ニ到リ召集令狀ヲ受取リ且其指示ニ從ヒ旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ直ニ本籍海兵團ニ參着シ召集令狀履歴表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

第二十三條 召集ノ期ニ遅ル者アルトキハ海兵團長ハ第十七條ノ召集令狀ノ領收證第二十條第二十一條ノ届書第十八條二項ノ旅行延滞事由書及旅費交附時日證票等ヲ參考トシテ其事由ヲ糾問シ懲罰ニ該ル者ハ直ニ之ヲ處分シ刑法ニ該ル者ハ海軍治罪法ニ從ヒ其處分ヲ爲スヘシ

第二十四條 召集ノ事一應其局ヲ結ヒシキハ海兵團長ハ不參ノ人名表ヲ作リ各自姓名ノ上ニ不參事由ヲ記シ鎮守府司令長官ニ差出シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

附則

第二十五條 臨時召集ニ關スル旅費支給ノ準備手續等ハ別ニ之ヲ定ム
第二十六條 本令ニ於テ町村長トアル場合ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戸長トス

様式第一

曲尺六寸

召集令狀

(何)備役

海軍(何官職)(姓名)

表

運七四七

召集ヲ命ス

明治(何)年(何)月(何)日

(何)鎮守府

印

裏

召集令狀ニ對スル心得

一 旅費ハ來 日午前 午後 時ヨリ 二於テ支給スヘシ

二 此令狀ヲ受取タルトキハ必ス二十四時間以内ニ發足シ 發足ノ節ハ印形履歴表ヲ持參スルヲ忘ルヘカラス

前記ノ場所ニ到リ旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ 旅費ヲ受取ルトキ 此令狀ヲ示スヘシ

一日行程尠クトモ十二里 沿道ニ瀛車瀛船ノ便アルトキハ以テ旅行シ鎮守府海兵團ニ參著 此令狀、履歴表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

三 發足ノ節ハ前記ノ印形履歴表ノ外ニ私服ヲ包ム爲メニ風呂敷ノ類ト之ニ附スル姓名札作リタルモノヲ良シトスラモ持參スヘシ

四 召集地ニ到ル途程中瀛車瀛船ニ事故アリ若シハ疾病川支等ノ爲メニ旅行ノ延滞ヲ生シタルトキハ其事由ト延滞セル時日ヲ記シ 疾病ナレハ瀛車ノ事故ナレハ驛長若クハ會社、瀛船ノ事故ナレハ船長、事務長若クハ會社、川支等ナレハ其地ノ憲兵警察官島司郡區市長若クハ町村長ノ證印ヲ受テ參著 時之ヲ海兵團長ニ差出スヘシ

五 此令狀ヲ受取リタルトキ傷痕疾病若クハ病後ニテ到底二十四時間以内ニ發足シ能ハサルハ其事由書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受テ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡區市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ届出テ且此令狀ヲ一先ツ島司郡區市長ニ返附シ置キ快愈ニ至ラハ速ニ之ヲ前記ノ手續ニ依テ届出テ且直ニ島司郡區市長役所ニ到リ再ヒ令狀旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ(二)ニ記セル如ク海兵團ニ到ルヘシ

様式第二

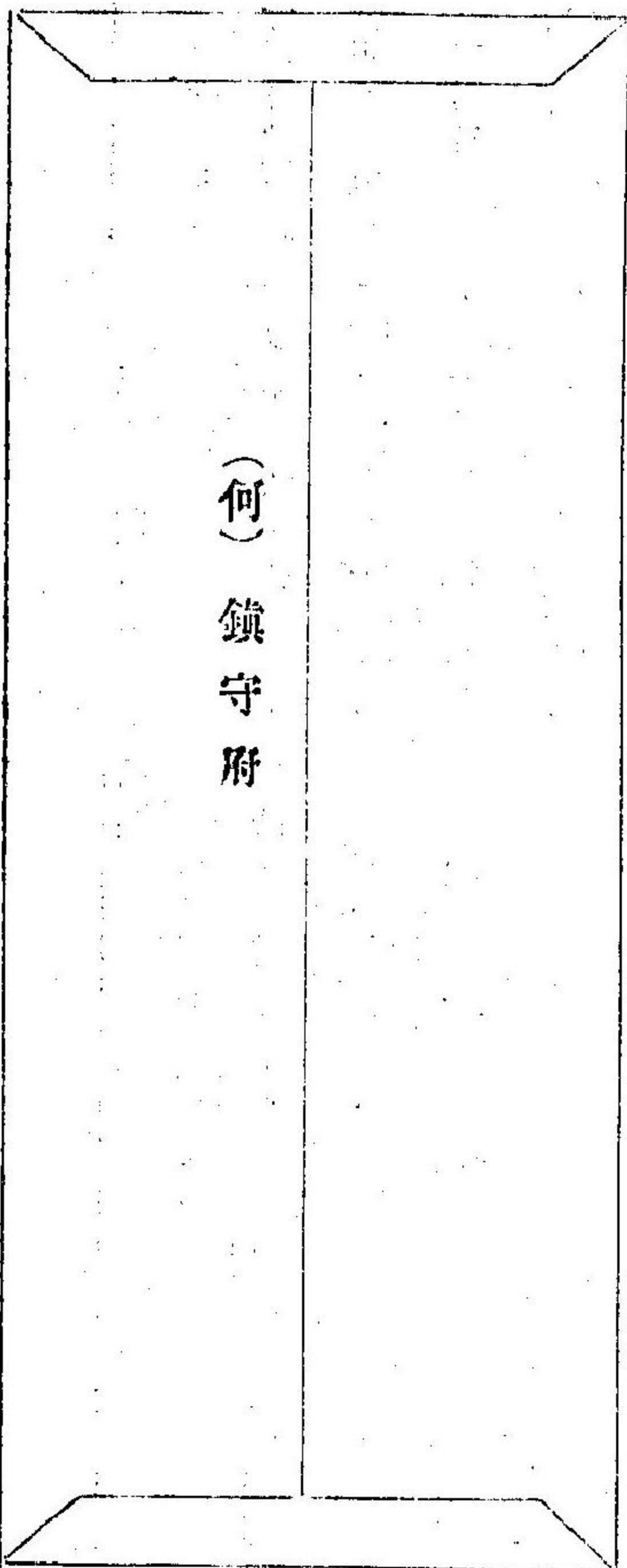
曲尺六寸二分

此召集令狀ノ配達ヲ受ケタル片名宛ノ本人犯罪失踪旅行寄留等ニテ家ニ在ラス二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應セシムル能サル者ハ家族親族若クハ召集通報人其事由ヲ詳記シ憲兵隊ヲ置カサル府ノ證認及市町村長ノ與書證印ヲ受ケ島司郡區市長ヲ經テ海兵團長ニ届出ヘシ召集令狀同時ニ島司郡區市長ニ返附スヘシ其召集令狀受領後逃亡セル者アルトキモ亦同シ

何府(縣)何郡(區)何(町)村何番地
 (何)備役
 海軍(何官職) (姓名)殿
 召集令狀在中

此處へ赤キ紙片ヲ貼附スヘシ

封筒ハ糊封スヘカラス



裏

表

様式第三

截切線

曲尺四寸

領收證

一 召集令狀

一通

右正ニ領收候也

明治(何)年(何)月(何)日午後

(何)備役

海軍(何官職) (姓名)印

召集令狀到着ノ時若ク本人不在ナルトキハ家族親族若クハ召集通報人ニ於テ之ヲ受取リ空白ノ處へ署名捺印スヘシ

本領收證ハ封筒ノ下ニ貼附シアルモノトス

曲尺四寸

様式第四

旅費交附時日證券
 (何)備役
 海軍(何官職)(姓名)
 右(何)月(何)日 午前
 午後 何時定規ノ旅費ヲ交附
 セリ
 明治(何)年(何)月(何)日
 署 名

様式第五

警 報
 海軍豫備役(後備役)下士卒召集相成候事 特ニ明治(何)年(何)月(何)日以後現役ヲ離レタル者ヲ召集スルノ合アリタルトキハ之ヲ明記スヘシ
 明治(何)年(何)月(何)日

○法律第二號(明治二十三年一月十五日)
 軍港要港域内ニ所在ノ人民及出入スル船舶ハ海軍大臣ノ定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ

但海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムル片ハ内務大臣農商務大臣ト協議スヘシ

○法律第八十三號(明治二十三年九月十二日)

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○陸軍省令第十六號(明治二十九年七月十三日)
 陸海軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者届出方左ノ通定ム

- 一 年齢二十歳未満ノ者ニシテ陸海軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリタル片ハ其ノ戸主ヨリ二十歳トナル年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ市町村長(東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區戸長及之ニ準スヘキ者以下同シ)ニ届出ヘシ年齢二十歳以上ノ者ニシテ徵兵事務條例ニ依リ終決ノ處分ヲ受ケサル者ニ在テハ學生

生徒トナリタル日ヨリ十四日以内ニ届出ヘシ

二 前項届出ヲ爲シタル者傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學生生徒ヲ免セ
ラレ豫備役又ハ後備役編入常備後備ノ役又ハ兵役免除ノ處分ヲ受ケ
サルトキハ本人ヨリ十四日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ

但年齢二十歳未満ニシテ本文兵役ニ關スル處分ヲ受ケタル者亦同シ
三 陸海軍兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(年齢二十歳前後ヲ問ハス)ニシ
テ將校同相當官准士官下士又ハ兵卒トナリタルトキハ本人ヨリ十四
日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ

四 第一項及第二項(但書ヲ除ク)ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九拾
五錢以下ノ科料ニ處ス

○勅令第二百三十一號(明治二十九年五月二十五日)

憲兵條例

第一章 總則

第一條 憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察行政警察
司法警察ヲ掌ル其ノ戰時若クハ事變ニ際シ特ニ要スル服務ノ規程ハ別ニ
之ヲ定ム

第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣ニ隸シ行政

警察ニ係ルモノハ内務大臣ニ隸シ司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ニ隸ス

但北海道ノ行政警察ニ係ルモノハ拓殖務大臣ニ隸ス

第三條 憲兵ハ行政警察司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監北海道廳長官府
縣知事(東京府ヲ除ク)及檢事ノ指示ヲ承ク

第四條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキ
ハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

- 一 暴行ヲ受クルトキ
- 一 其ノ占守スル土地若クハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵
カラ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝
ツ能ハサルトキ

第六條 必要ノ場合ニ際シ内務大臣陸軍大臣拓殖務大臣協議シテ憲兵ヲ一
時其ノ管區外ニ分派スルコトヲ得

第二章 配置編制

第七條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各管區ニ憲兵隊ヲ配置ス

憲兵管區ハ別表ニ依ル

第八條 各府縣廳所在地及北海道樞要ノ地ニ漸次憲兵分隊ヲ置ク其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區トス

第九條 憲兵警察區ヲ數箇ノ憲兵巡察區ニ分畫シ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ配置ス

第十條 憲兵警察區ノ區域ハ府縣ハ其ノ區域ニ從ヒ北海道ニ在テハ陸軍大臣拓殖務大臣協議シテ之ヲ定メ憲兵巡察區ハ憲兵隊長ヨリ警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府ヲ除ク)ニ協議シテ之ヲ定ム

第十一條 憲兵司令部ノ職員左ノ如シ

憲兵司令官

少將若クハ憲兵大佐

副官

憲兵少佐憲兵大中尉

軍吏

書記

憲兵下士軍吏部下士若クハ屬

第十二條

憲兵隊ノ職員左ノ如シ

本部

隊長

憲兵中少佐

副官

憲兵大中尉

軍吏

下副官(准士官)

憲兵曹長

書記

憲兵下士若クハ軍吏部下士

分隊

分隊長

憲兵大中尉

分隊副長

憲兵中尉

書記

憲兵下士

上等伍長(准士官)

伍長

憲兵曹長

憲兵上等兵

分隊副長及上等伍長ハ之ヲ置カサルコトヲ得

第十三條 憲兵上等兵五名乃至十二名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス

時宜ニ依リ一伍中ノ若干名ヲ乘馬兵ト爲ス

第十四條 憲兵隊ハ番號ヲ附シ憲兵分隊ハ府縣名北海道ニ在テハ分隊首部

所在地名ヲ冠ス

第三章 職務

第十五條 憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ内務大臣陸軍大臣海軍大臣司法大臣拓殖務大臣ニ申報スヘシ

第十七條 憲兵司令官ハ軍紀風紀訓練教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其ノ景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條 憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條 憲兵隊長ハ管区内ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ憲兵司令官ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ衛戍司令官要塞司令官鎮守府司令官長官要港部司令官北海道廳長官及管轄控訴院檢察長ニ申報スヘシ

第二十條 憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス又警察区内ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件アルトキ知リタ

ルハハ警視總監府縣知事東京府ヲ除ク及管轄地方裁判所檢事正及憲兵隊長ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ直ニ衛戍司令官要港部司令官鎮守府司令官長官要港部司令官ニ申報スヘシ

第二十一條 憲兵分隊長ハ常ニ警部長其ノ他警察署長ト交互謀報シ其ノ地方ノ情况ヲ知悉スヘシ

第二十二條 憲兵分隊副長ハ分隊ノ一部ヲ指揮ス其ノ職掌分隊長ニ亞ク

第二十三條 憲兵上等伍長及伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且巡察区内ヲ巡視シ其ノ事情ヲ知悉スヘシ又必要ノ事件ハ常ニ其ノ地方警察官ト相互謀報スヘシ

第二十四條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察区内ヲ巡察シ其ノ事情ヲ審ニスヘシ

第二十五條 憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム

附 則

第二十六條 當分ノ内憲兵少尉ヲ以テ分隊長若クハ分隊副長ノ職ニ充ツルコトヲ得

第二十七條 明治二十八年勅令第九十五號憲兵條例第四章及第五章ハ更ニ補充及服役ニ關スル規程ヲ設クル迄仍其ノ効力ヲ有ス

(別表)

憲兵管區表

管區名	區	域
第一區	東京府 神奈川縣 長野縣 群馬縣 埼玉縣 千葉縣 山梨縣 茨城縣	
第二區	宮城縣 新瀉縣 青森縣 秋口縣 福島縣 巖手縣	
第三區	愛知縣 石川縣 三重縣 富山縣 靜岡縣 岐阜縣	
第四區	大阪府 京都府 兵庫縣 和歌山縣 滋賀縣 岡山縣	
第五區	廣島縣 愛媛縣 山口縣 高知縣 島根縣 香川縣	
第六區	熊本縣 長崎縣 福岡縣 鹿兒島縣 宮崎縣 佐賀縣	
第七區	北海道	

(明治二十八年勅令第九十五號憲兵條例第四章及第五章ハ左ノ如シ)

第四章 補充

第二十四條 憲兵士官下士ノ補充ハ陸軍武官進級條例ニ依ルノ外各兵科士官下士ノ内ヨリ撰任ス

但二等軍曹ハ憲兵上等兵中一箇年以上其ノ職務ニ服シタル者ヨリ撰任スルコトヲ得

第二十五條 憲兵上等兵ハ現役豫備役及後備役ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ検査合格ノ者ヨリ撰用ス

第二十六條 憲兵下士上等兵ノ撰任ニ係ル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五章 服役

第二十七條 憲兵下士上等兵ハ任命ノ日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服セシム現役滿期ノ時前兵科ノ服役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ通シテ十二箇年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム其ノ十二箇年ヲ過クル者ハ之ヲ免除ス

第二十八條 憲兵下士上等兵ハ服役滿期ノ後再服役ヲ請願スルコトヲ得再服役ハ三年ヲ以テ一期トシ年齢定限ニ至ル迄ハ數次請願スルコトヲ得但一期間ニ於テ定限年齢ニ達スル者ハ其ノ定限年齢迄トス

其ノ再服役満期ノトキハ前條第二項ノ例ニ依ル

第二十九條 再服役ヲ請願スル者ハ現ニ所屬ノ部隊ニ於テ服役スルモノト
ス其ノ分隊ニ在テハ分隊長ト誓約シ憲兵隊本部ニ在テハ隊長ト誓約シ憲
兵司令部ニ在テハ憲兵司令官ト誓約ス其本文ノ場合ニ於テ分隊長及隊長
ハ憲兵司令官ノ認可ヲ請フヘシ

第三十條 再服役中轉隊若クハ轉職セシムルコトアリト雖從前ノ誓約ハ新
ニ屬スル所ノ部隊ノ長ニ移ルモノトス

第三十一條 服役期限既ニ滿ツルト雖戰時若クハ事變ニ際シテハ期限ヲ延
スコトアルヘシ

第三十二條 再服役満期ニ至リタル者其ノ服役十二箇年ヲ過クルモ仍其ノ
年數ヲ定メ後備役ニ服センコトヲ志願スルトキハ隊長憲兵司令官ノ認可
ヲ得テ之ヲ許可スルコトヲ得

但憲兵司令部附ノ者ハ憲兵司令官ニ於テ許可スヘシ
憲兵司令官又ハ隊長前項ノ服役ヲ許可シタルトキハ本人所管ノ大隊區司
令官ニ通報スヘシ

第三十三條 憲兵下士上等兵現役中ハ左ニ掲クル者ニ限り特ニ之ヲ免除ス

第一 本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事實ヲ證明シ願
出ル者

第二 疾病若クハ傷痕ニ因リ現役ニ堪ヘ難キ者

第三 素行不修又ハ職務不適當ノ者

第四 疾病若クハ傷痕ニ因リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者

第五 疾病若クハ傷痕ニ因リ永久服役ニ堪ヘ難キ者

第三十四條 前條第一第二第三ニ當ル者ニシテ前兵科ノ服役年月ヲ通算シ
七箇年ニ滿タサル者ハ通シテ七箇年ニ滿ツル迄豫備役ニ十二箇年ニ滿タ
サル者ハ通シテ十二箇年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム其ノ服役十二箇年
ヲ過キタル者及前條第四ニ當ル者ハ常備後備ノ役ヲ免除シ其ノ第五ニ當
ル者ハ兵役ヲ免ス

第三十五條 憲兵下士上等兵其ノ職務ヲ辱シムルニ因リ懲罰ノ處分ヲ受ケ
ルトキハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ラス官職ヲ免スルコトヲ得

第三十六條 前條ニ依リ官職ヲ免セラレタル者及刑法又ハ陸軍懲罰令ニ依
リ官職ヲ失ヒ若クハ免セラレタル者ハ前兵科ニ服シ兵卒トナシ憲兵科服
役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ其ノ年數ニ從ヒ現役豫備役又ハ

後備役ニ服セシム其ノ十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第三十七條 第三十三條乃至第三十六條ニ當ル者アルトキハ憲兵司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ヒ現役又ハ兵役ヲ免ヌ

○内務省達乙第五十二號(明治十四年十月廿五日)

憲兵職掌中行政警察事務ノ義別紙ノ通り及達示候條爲心得此旨相達候事

(別紙(明治十四年十月二十二日))

憲兵本部

行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通り相心得執行可致此旨相達候事

行政警察規程

第一條 行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保存スルニ在リ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス

- 一 人民ノ妨害ヲ防護スル事
- 二 法章ノ遵奉ヲ視察スル事
- 三 健康ヲ看護スル事
- 四 國事ニ關スル犯罪ヲ未崩ニ搜索警防スル事

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可ラス

第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察事務官吏其場ニ臨ミタルルルハ其處分ヲ事務官吏ニ讓ルヘシ

○告示第百十七號(明治二十九年七月十日)

山口憲兵警察區内巡察區左ノ通改正ノ旨第五憲兵隊長ヨリ通知アリタリ

山口憲兵警察區

山口町屯所巡察區

吉敷郡 佐波郡

美禰郡 厚狹郡

赤間關市屯所巡察區

赤間關市 豊浦郡

萩町屯所巡察區

阿武郡 大津郡

柳井津町屯所巡察區

玖珂郡 都濃郡

熊毛郡 大島郡

○示警甲第五十二號(明治廿九年七月廿一日)

是迄ノ憲兵巡察區ヲ守區ト改稱左ノ通其區域改定ノ旨山口分隊長山本政元
ヨリ通報來候處該守區内在住ノ歸休兵及豫備後備役等ノ軍人陸軍召集條例
所掲ノ證認ハ各屯所ニ於テ執行セシメ其他ニ在テハ從前ノ通警察署分署ニ
於テ執行ノ筈ニ候條此旨心得ラルヘシ

山口町屯所守區

吉敷郡

山口町

宮野村

上宇野令村

下宇野令村

大内村

吉敷村

赤間關市屯所守區

赤間關市

豐浦郡

彦島村

豐東下村

豐西下村

長府村

豐西中村

萩町屯所守區

阿武郡

萩町

椿郷東分村

椿郷西分村

山田村

三見村

柳井津町屯所守區

玖珂郡

柳井津町

柳井村

古開作村

新庄村

余田村

熊毛郡

平生村

○示警甲第二十號(明治二十九年四月七日)

第五憲兵隊山口分隊赤間關市及山口屯所ノ事務本月十日ヨリ開始セラレ候
ニ就テハ執務上便宜ノ爲メ左ノ事項協議ノ上取極候條相當措置セラルヘシ
一 巡查及憲兵上等兵同時ニ被告人ヲ逮捕シタル時常人ナレハ巡查ニ軍
人軍属ナル時ハ憲兵上等兵ニ引渡ス事
二 強盜殺人放火犯等アルニ當リ先ニ知リタル方ヨリ所轄警察署又ハ最
寄憲兵屯所へ通報スル事
三 陸軍召集條例第四十三條ニ掲載ノ證認ハ憲兵巡察區内ニ在テハ憲兵
屯所ニ於テシテ其他ノ町村ニ在テハ所轄警察署ニ於テスル事

第二款 海陸諸標

○勅令第六十七號(明治廿一年十月十日)

航路標識條例

第一條 航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條 土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得

此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得

遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之

ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○布告第二百九十號(明治六年八月八日)

各所設置ノ錨標浮標ハ内外航路一般ノ標的ニシテ最モ緊要ナルモノニ候然ルニ漁人等浮標へ舟ヲ繫キ或ハ錨標ノ階梯ニ上リ候者間々有之趣右等ノ所業ヨリ竟ニ標的ヲ破損シ内外ノ航海者危難ニ陥リ候テハ以ノ外ノ儀ニ付心得違ヒ無之様可致此旨布告候事

○法律第三十八號(明治二十三年五月二十六日)

水路測量標條例

第一條 本條例中測量標ト稱スルモノハ基點標測標トス

第二條 水路測量官ニ於テ民有地ニ測量ヲ設置スル爲メ敷地ヲ要スルトキハ所有者ト協議ノ上之ヲ使用スヘシ又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第三條 水路測量官測量ノ爲メ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種及ヒ民有宅地内若クハ牆垣籬柵内ニ立入ラントスルトキハ先ツ其所管廳又ハ所有者ニ通知スヘシ

但官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地並宅地ニアラ

サル民有地及ヒ所有者又ハ管理人ノ所在遠隔スル口畑等ノ垣柵内ニ在テ
 ハ直ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ測量官タルノ證票ヲ携帶スヘシ
 第四條 測量施行ノ爲メ障碍トナル竹木ヲ已ムヲ得ス伐除シ又粘垣籬柵植
 物等ヲ毀損シタルトキハ所有者ト協議シ相當ノ補償ヲナスヘシ
 第五條 基點標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮
 ニ處シ又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六條 測標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ
 處ス
 第七條 過誤ニヨリ測量標ヲ毀損シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲キ獸類ヲ
 繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ越書シ其惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以
 上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 ○海軍省告示第十六號(明治二十三年
 六月四日)
 水路測量標條例中第一條ノ基點標測標及第三條ノ測量官證票ハ左ノ如シ
 基點標ノ本標ハ測量標設置ノ位置中重要ナル場所ニ於テ測標去最後永遠保
 存ノ爲メ設置スルモノトス則第一圖ノ如シ
 (第一圖略ス)

測標 本標ハ測量中設置シ測量終レハ撤去スルモノトス則第二圖以下ノ如
 シ
 (第二圖ヨリ第七圖マテ略ス)
 右ニ示シタルモノ、外岸角石垣ヲ白塗シテ標トナス又樹木牆垣柵及家屋等
 ノ目標トナルヘキモノヲ撰ミ白塗シテ測標トスルコトアルヘシ
 測量官證票

第何號	裏
水路部測量證	職官氏名
而印	而

○法律第二十三號(明治廿三年
 三月二十六日)
 陸地測量標條例
 第一條 本條例中測量標ト稱スルモノハ三角點標石水準點標石誤標標杭測
 旗假杭トス
 第二條 陸地測量部ニ於テ宅地ニアラサル民有地ニ測量標ヲ設置スル爲メ

敷地ヲ要スルトキハ所有者之ヲ拒ムコトヲ得ス又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管應ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及ヒ民有宅地内ト雖ヒ已ムヲ得サル場合ニ於テハ測旗假杭ニ限リ前項ニ準シテ之ヲ設置スルコトヲ得

第三條 民有地ニ標石ヲ設置スルトキハ其敷地ヲ買上クヘシ

但所有者ニ於テ其土地ヲ寄附シ又ハ借地料ヲ要セス永遠貸地トナサソコトヲ望ムトキハ格別トス

第四條 民有地ニ規標及ヒ標杭ヲ設置シタルトキハ宅地ニ在テハ相當ノ借地料ヲ給シ田畑畝田鑛泉地ニ在テハ一箇年一坪ニ付金三錢其他ニ在テハ同金一錢ノ割ヲ以テ借地料ヲ給ス

但所有者ニ於テ其土地ヲ寄附シ又ハ借地料ヲ要セス貸地トナサソコトヲ望ムトキハ格別トス

第五條 測量主任官測量ノ爲メ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及ヒ民有宅地内若クハ牆垣籬柵内ニ立入ラントスルトキハ先

ツ其所管應又ハ所有者ニ通知スヘシ

但官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地或宅地ニアラサル民有地及ヒ所有者又ハ管理人ノ所在遠隔スル田畑等ノ垣柵内ニ在テハ直ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ主任官タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第六條 官有地第三種第一項ノ土地及ヒ宅地ニアラサル民有地内ニ於テ測量施行ノ爲メ障礙トナル竹木ハ已ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ伐除シ又樹上ニ規標ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ補償ヲナスヘシ

第七條 測量施行ノ爲メ牆垣籬柵等又ハ植物ヲ毀損シタルトキハ相當ノ補償ヲナスヘシ

第八條 第三條ノ敷地買上料第四條ノ宅地借地料及ヒ第六條第七條ノ補償金額ニ付所有者ト協議調ハサルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ評定セシム市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 標石ハ諸測量ノ基準點トシテ官民共ニ使用スルコトヲ得

第十條 標石ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 標及ヒ標杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 測旗及ヒ假旗ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲キ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 本條例施行ノ細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第十五條 本條例中市制町村制ノ實施ニ至ラサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長ヲシテ之ヲ行ハシム

○陸軍省令第十七號(明治二十八年八月十五日)

陸地測量標條例施行細則

第一條 陸地測量ハ三角測量水準測量及地形測量ノ三トス

第二條 陸地測量部ハ各測量ヲ施行セントスルトキ豫メ之ヲ所轄ノ道廳府縣廳ニ通知シ該廳ハ之ヲ其地區ニ告示スヘシ

第三條 陸地測量部ハ地形測量ノ完成シタルトキハ之ヲ所轄道廳府縣廳ニ通知スヘシ

第四條 陸地測量部ハ道廳府縣廳若クハ島司郡市長ニ照會シ測量上必要ノ調査ヲ求ムルコトヲ得

但事宜ニ依リ出張測量官ヲシテ直ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 本條例第五條ニ依リ測量主任官ノ携帶スル證票左ノ如シ

表 第何號	裏 陸地測量部何科何
面 陸地測量證	面 官氏名

第六條 標石及海岸水準點規標ハ永遠ニ保存スヘキモノニシテ其種類ハ左ノ如シ

一等三角點標石 (第一圖)

二等或ハ三等三角標石 (第二圖)

水準點標石 (第三圖)

海岸水準點規標

(地形ニ應シ建設スルヲ以テ其形狀一定セス)

第七條 規標海岸水準點規標ヲ除ク標杭ハ地形測量ヲ終ル迄假抗ハ三角點

桿標或ハ水準點標石ヲ設置スル迄保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ
三角點桿標 (第四第五第六第七第八第九圖)

四等三角點標杭 (第十圖)

三角點或ハ一等水準點假杭 (第十一圖)

二等水準點標杭 (第十二圖)

地形圖根點標標 (第九圖)

地形根點標杭 (第十三圖)

地形水準點標杭 (第十四圖)

第八條 測量主任官測量標ヲ建設セントスルトキ御料地内ニ在テハ該地所屬ノ區別ニ依リ豫メ御料局或ハ同支廳又ハ出張所ニ通知スヘシ

但事業ノ急施ヲ要シ其場所所料地所轄廳ト遠隔セルトキハ建設ノ後之ヲ通知スルコトヲ得

官有地第一種第二項神地 (伊勢神宮並ニ山陵ヲ除ク) ニ在テハ其社及所管廳ト協議シ

官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及民有社寺地同宅地ニ在テハ測旗假杭建設ノ外ハ其管廳又ハ所有者ニ協議スヘシ

第九條 測量主任官ハ測量標 (地形測量ニ際シ一時假設ノ測旗假標ヲ除ク) ヲ建設セルトキ其

種類位置及坪數等ノ記載シタル書類ヲ市長又ハ町村長ニ交付シ該敷地ニ係ル調査ヲ求ルコトヲ得此場合ニ於テ市町村長ハ其位置ノ國郡市町村字地目番地及官有ニ在テハ所轄廳名民有ニ在テハ所有者ノ住所氏名並ニ本條例第三條及第四條ノ規定ニ關シ敷地所有者ノ志望等ヲ調査シ取調書第一(第二)號書式或ハ建標請書第三號書式又ハ寄附願書第四號書式ヲ徵シ別ニ其謄本一通ヲ添ヘ二週間内ニ測量主任官ニ送致スヘシ

第十條 測量主任官ハ前條ノ正本ヲ添ヘ官有地ニ係ルモノハ其所轄廳ニ民有地ニ係ルモノハ該地所轄ノ道廳府縣廳ニ通知スヘシ

第十一條 道廳府縣前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其正本ニ依リ敷地ノ買上メ借入レ等ノ事ヲ處分シ其旨ヲ陸地測量部ニ通報スヘシ

第十二條 測量諸標ヲ建設シ其敷地ニ關スル處分結了シタルトキハ陸地測量部ニ於テ測量諸標名敷地ノ明細書ヲ製シ之ヲ道廳府縣廳 (東京府下ニ在テハ警視廳) ニ通知シ其保管ヲ求ムヘシ

但東京府廳ヘハ別ニ本文ノ明細書ヲ送付シ置クヘシ

道廳府縣廳 (東京府下ニ在テハ警視廳) ニ於テハ適宜保管ノ戶法ヲ設ケ各地方警察署長分署長又ハ市町村長ヲシテ測量諸標同敷地ヲ監守セシメ若シ矢毀損其

他異狀アル片ハ其事由ヲ附シ之ヲ届出シ其旨陸地測量部ニ通知スヘシ
陸地測量部ハ測量諸標ヲ移轉若クハ撤去シタルトキハ道廳府縣廳(東京府下ニ在リ)
ニ在テハ別ニ通知シ官有地ニ係ルモノハ猶其所轄廳ニ通知スヘシ

第十三條 陸地測量部ニ於テ前年ノ通知ヲ受ケタルトキハ其必要ニ應シテ
修理又ハ改設ヲ執行シ更ラニ道廳府縣廳(東京府下ニ在リ)ニ通知スヘシ

第十四條 標石敷地ハ方一坪ニシテ標石ヲ以テ其中心ヲ領セシム
但シ坪ハ地形ニ應シ本條ニ依リ難トキハ格別トス

第十五條 界地標抗ノ敷地ハ地形ト建標ノ種類ニ依リ異同アルヲ以テ豫メ
一定セス

第十六條 標石敷地内ニ土砂ノ塵埃其他雜物等ヲ堆積スルヲ許サス

第十七條 敷地買上代ハ其都度之ヲ支拂ヒ借地料ハ會計年度末ニ於テ之ヲ
支拂フヘシ

但借地料ハ其土地使用ノ當日ヨリ起算シ其一箇年ニ滿タサルモノハ月
割ヲ以テ支拂フヘシ

第十八條 敷地買上代及借地料ハ本人ヨリ地方廳ニ請求書第五號書式ヲ差
出シ該廳ハ審査ノ上之ヲ陸地測量部ニ回付スヘシ

但シ借地料請求書ハ三月五日迄ニ地方廳ニ差出シ該廳ハ同月十日限り
之ヲ發送スヘシ

第十九條 官有ニ係ル竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ規標ヲ設置シタルトキハ測
量主任官ハ其明細書ヲ作り所轄廳ニ報告シ所轄廳補償ヲ要スルトキハ相
當ノ額ヲ定メ陸地測量部ニ請求スヘシ

第二十條 市町村又ハ人民ニ對スル補償金ノ支拂ハ出張測量官ニ於テ之ヲ
取扱フモノトス

第二十一條 本條例第六條掲記外ノ土地ニ在テハ已ムヲ得サルトキト雖モ
其所轄廳或ハ所有者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ障礙竹木ヲ伐除シ又ハ樹
上ニ規標ヲ設置スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ前二條ヲ適用ス

第二十二條 標石規標ハ陸地測量部ノ認可ヲ得ルニアラサレハ使用スルコ
トヲ得ス

前項ノ認可ヲ得ントスル者ハ豫メ使用ノ日數及其事由ヲ詳記シ陸地測量
部ニ申請スヘシ

第二十三條 標石使用ノ爲メ新ニ要スル標旗標杭其他規標等ハ標石ヲ離ル
、コト二尺以内ノ地ニ建設スルヲ許サス

第二十四條 使用者標石ノ經緯度及眞高ヲ要スルトキハ其種類番號位置ヲ詳記シ陸地測量部ニ請求スヘシ

第二十五條 標石規標標杭ノ周圍ニ於テ之ヲ毀損スルノ虞アルカ又ハ其効用ヲ妨クヘキ事業ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シ設計圖ヲ添ヘ其移轉ヲ道廳府縣廳ニ請求スヘシ

第二十六條 道廳府縣廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ審查シ意見ヲ附シ之ヲ陸地測量部長ニ移牒スヘシ
但移轉ノ爲メニ要スル費用ハ其請求者ノ負擔トス

第二十七條 陸地測量部長前條ノ移牒ヲ受ケ移轉ノ必要ヲ定ルトキハ其移轉ニ要スル費用ノ概算額ヲ定メ地方廳ヲ經テ之ヲ請求シ移轉執行ノ上ハ其決算ヲナシ證憑書類ヲ付シ該廳ニ送致スヘシ

第二十八條 道廳府縣廳ハ前條ノ費用ヲ請求者ヨリ受取リ陸地測量部ニ回付シ其決算書類ハ之ヲ其請求者ニ送致ス可シ

第二十九條 測旗假杭ノ移轉ヲ要ス可キ事由アルトキハ出張測量主任官ニ請求シテ其承諾ヲ經ヘシ

但測量官ノ出張シアラサルトキハ第二十五條第二十六條ニ準スヘシ

第三十條 測量標敷地所在ノ町村名其他ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ道廳府縣廳ヨリ陸地測量部ニ通知スヘシ

第三十一條 本則第十六條第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ犯シタル者ハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本則中市町村長ノ爲メヘキ事務ハ區戶長若クハ之ニ準スル吏員ニ於テ之ヲ行フヘシ

第三十三條 本則ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

○陸軍參謀本部ヨリ回付

陸地測量標ニ關スル說明

高山ノ頂ヲ仰キテ紅旗ノ風ニ閃クヲ望メハ兒童ト雖トモ皆其測量ノ記號タルヲ知ル(陸地測量標條例第一條ノ所謂測旗)均シク是レ測量ノ記號ナリ而シテ更ニ永久ニ貴重ナル者ニシテ人々ノ末々熟知セサルアリ請フ之ヲ左ニ示サン
貞石ヲ土中ニ植ルヲ數尺ニシテ其頭角ヲ地上ニ顯ハス五寸乃至七寸ナルモノ之ヲ標石ト云此標石ハ三角測量ノ基準點ニシテ凡ソ四種アリ一等三角

點二等三角點三等三角點及水準點是ナリ此ノ標石ノ一等乃至三等三角點ニ屬スルモノニハ上面ニ十字ヲ刻シ水準點ニ屬スルモノニハ上面ニ乳狀ノ小突ヲ起ヲ刻シ裏面ニ番號ヲ鐫シタリ(其形狀ハ附圖ニ示)(附圖ハ陸條例施行細則ニ在)ルヲ以テ省ク

此三角點標石ハ多クハ山頂丘陵等視通ノ便ナル所ニ三角形ノ適度ニヨリ埋定セルモノニシテ其點ノ位置ハ經緯度ニテ指示シ其標高ハ水準點標石ヨリ測算シテ定メタルモノナリ

水準點標石ハ國道縣道若クハ幅員ノ廣キ道路ニ沿ヒ約半里毎ニ埋定セルモノニシテ土地ノ高低ヲ指標スルニ供スルモノナリ其原點ハ帝國參謀本部ノ庭園中ニ建設セラレタル基點(則チ東海ノ中等潮位ノ上方廿四)ヨリ起算シ各道ニ沿フテ走リ或ハ高ク或ハ低ク隨處其土地ノ中等海水面ヨリ高キ幾何ナルカヲ知ラシムル切要ナル固定點ナリ

以上四種ノ標石ハ共ニ測量ノ基準點ニシテ之ヲ利用スレハ一地方人民ノ測量上ニモ使用シ大ニ利便ヲ得ヘキモノナルヲ以テ當ニ全國測量ノ時ニ於テ大ニ緊要ナルノミナラス其測量完成ノ後ト雖ヒ之ヲ永遠ニ傳ヘ安全ニ保存セサル可カラサルモノナリ其貴重ナルコト決シテ測旗標杭ノ比ニ

非サルナリ

又三角點標ト稱スル者アリ木ヲ架シテ之ヲ作ル大小凡五種アリ此標ハ觀測ノ目標ニシテ或ハ觀測者ノ器械ヲ安頓スル所ト爲ス其角度ハ以テ秒少ノ微ヲ測ルヘク或ハ回照夫(測夫山頂ニ於テ反射器械ヲ以テ前面測器者)ノ日光ヲ反射セシムル用ニ供ス其方向ハ以テ厘毫ノ差ヲモ許スヘカラス故ニ測量終アル迄ハ其貴重ナルト標石ト異ナルヲナシ

標石及現標ノ測量事業ニ必要貴重ナル此ノ如キモノナルカ故ニ政府ハ明治二十三年三月ヲ以テ之レカ條例(法律第廿三號)ヲ發布シ之ヲ移轉若シクハ毀損シタルモノ、罰則(第十條第)ヲ示サレ陸軍省モ亦同年四月ヲ以テ此條例ノ施行細則(省令第)ヲ示サレタリ然ルニ世人尙ホ之ヲ遵奉セス往々標石標規ニ毀害ヲ加ル者アリテ當ニ測量事業ヲ妨クルノミナラス身モ亦刑辟ニ觸ル、ハ何ソヤ抑モ未タ測量ノ大ニ國家ニ要用ナルヲ解セサルカ豈ニ慨難ノ至ナラスヤ

夫レ測量ナル者ハ地圖ヲ調製センカ爲メナリ地圖ナル者ハ即チ國土ノ摸型ニシテ兵事ニ教育ニ立法ニ行政ニ農工商業ニ鑛業ニ林務ニ土木ニ總テ其要素タラサルハナシ故ニ國ニシテ精密ノ地圖ナキトキハ百度ノ整頓意

ニ望ム可カラサルナリ是ヲ以テ政府ハ夙ニ全國ノ測量ニ着手シ從來爲メ
 ニ支出スル所ノ要度ト將來之ニ要スル所ノ金額トヲ合計スレハ實ニ數十
 百參圓ノ鉅額ニ上ル者ナリ此ノ事業ノ必要已ニ彼ノ如ク之ニ資スルノ國
 幣亦此ノ如シ凡ソ國民タラシモノ豈ニ此測量ヲ輕視シテ可ナラソヤ既ニ
 測量ノ必要ナルヲ知ラバ宜シク標石規標ノ永久保存ノ貴重ナルヲ知リ親
 切ニ之ヲ保護ニ任スルハ豈ニ國民ノ義務ナラスヤ已ニ廿三年ノ法律及陸
 軍省令ニヨリ地方諸官ノ注意周到ナル可シト雖トモ事業上ニ就テハ主ト
 シテ當部ノ任スル所ナルヲ以テ茲ニ其要旨ヲ説明スルコト如斯

○示警甲第四十號 (明治廿九年六月三十日)

凡ソ測量標ナルモノハ陸軍省ニ於テ施行セラルヘキ諸般測量ノ基礎ニレテ
 頗ル重要ノモノナルヲ以テ明治廿三年三月法律第二十三號陸地測量標條例
 ニ依リ該標ノ移轉毀壞シ其他瓦礫雜物ヲ擲ツ等ノ所爲アルモノハ司法處分
 ト付セラルヘキ筈ナルニ付相當取締ルヘキハ固ヨリ當然ノ事ニ有之候處近
 來往々該標ヲ毀損スル者アリ爲メニ測量ヲ中止シ修繕ヲ施サ、ルヲ得サル
 カ如キ無益ノ手數ヲ要シ時日ヲ徒消スル等差支ヲ生スルコト甚カラスル趣
 ニ相聞ヘ候蓋シ測量標ナルモノハ多クハ山上等ノ高地ニ建設シアルヲ以テ

一見其異狀ヲ發見スルコト難ク從テ之レカ保護取締上多少困難ナルヘシト
 雖モ將來巡邏等ノ際ハ一層之ニ留意シ若シ其異狀ヲ發見シタル場合ハ勿論
 人民ヨリ届出ヲ受ケタル時ハ直ニ其旨ヲ報告シ一面其犯人ヲ檢舉シ以テ測
 量上支障勿ラシメソコト努メラルヘシ

○番外第九號 (明治廿九年七月三日) 本縣達

陸地測量標ニ關シテハ明治二十二年訓令第四號及同二十八年訓令第二五號
 ノ者モ有之該標ノ義ハ陸軍省ニ於テ施行セラルヘキ諸般測量ノ基礎ト相成
 頗ル重要ノモノニシテ概テ高山峻嶺ノ頂上ニ建設有之候所近來測量官該標
 點ニ出張ノ際間々之レニ毀損アルカ爲メ其測量ヲ中止シ修繕ヲ施ス等無益
 ノ時日ヲ消費シ差支ヲ生スルコト甚少ナラサル趣ニ有之就テハ兼テ之レカ
 毀損ヲ發見スルトキハ直チニ其修繕ヲ加フルノ手續可相成義ニ候條地方人
 民ニ於テモ該標ニ對シ不都合ノ所爲アルヘカラサルハ勿論之レカ異狀アル
 コトヲ發見シタルトキハ直チニ市町村長又ハ警察署駐在巡查ヘ届出ツヘキ
 旨尙ホ一般地民ヘ懇篤示諭スヘシ

ニ望ム可カヲナルナリ是ヲ以テ政府ハ夙ニ全國ノ測量ニ着手シ從來爲メ
 ニ支出スル所ノ要度ト將來之ニ要スル所ノ金額トヲ合計スルハ實ニ數十
 百參圓ノ鉅額ニ上ル者ナリ此ノ事業ノ必要已ニ彼ノ如ク之ニ資スルノ國
 幣亦此ノ如シ凡ソ國民タラシモノ豈ニ此測量ヲ輕視シテ可ナラシヤ既ニ
 測量ノ必要ナルヲ知ラバ宜シク標石埋標ノ永久保存ノ貴重ナルヲ知リ親
 切ニ之カ保護ニ任スルハ豈ニ國民ノ義務ナラズヤ已ニ廿三年ノ法律及陸
 軍省令ニヨリ地方諸官ノ注意周到ナル可シト雖トモ事業上ニ就テハ主ト
 シテ當部ノ任スル所ナルヲ以テ茲ニ其要旨ヲ説明スルヲ如斯

○示警甲第四十號 (明治廿九年六月三十日)

凡ソ測量標ナルモノハ陸軍省ニ於テ施行セラルヘキ諸般測量ノ基礎ニシテ
 頗ル重要ノモノナルヲ以テ明治廿三年三月法律第二十三號陸地測量標條例
 ニ依リ該標 移轉毀壞シ其他瓦礫雜物ヲ擲ツ等ノ所爲アルモノハ司法處分
 ト付セラルヘキ筈ナルニ付相當取締ルヘキハ固ヨリ當然ノ事ニ有之候處近
 來往々該標ヲ毀損スル者アリ爲メニ測量ヲ中止シ修繕ヲ施サ、ルヲ得サル
 カ如キ無益ノ手數ヲ要シ時日ヲ徒消スル等差支ヲ生スルコト甚カラサル趣
 ニ相聞ヘ候蓋シ測量標ナルモノハ多クハ山上等ノ高地ニ建設シアルヲ以テ

一見其異狀ヲ發見スルコト難ク從テ之レカ保護取締上多少困難ナルヘシト
 雖ト將來巡邏等ノ際ハ一層之ニ留意シ若シ其異狀ヲ發見シタル場合ハ勿論
 人民ヨリ届出ヲ受ケタル時ハ直ニ其旨ヲ報告シ一面其犯人ヲ檢舉シ以テ測
 量上支障勿ラシメシテ努力ヲタルヘシ

○番外第九號 (明治廿九年七月三日) 本縣達

陸地測量標ニ關シテハ明治二十二年訓令第四號及同二十八年訓令乙第二五號
 ノ者モ有之該標ノ義ハ陸軍省ニ於テ施行セラルヘキ諸般測量ノ基礎ト相成
 頗ル重要ノモノニシテ概テ高山峻嶺ノ頂上ニ建設有之候所近來測量官該標
 點ニ出張ノ際間々之レニ毀損アルカ爲メ其測量ヲ中止シ修繕ヲ施ス等無益
 ノ時日ヲ消費シ差支ヲ生スルコト甚少ナラサル趣ニ有之就テハ兼テ之レカ
 毀損ヲ發見スルトキハ直チニ其修繕ヲ加フルノ手續可相成義ニ候條地方人
 民ニ於テモ該標ニ對シ不都合ノ所爲アルヘカラサルハ勿論之レカ異狀アル
 コトヲ發見シタルトキハ直チニ市町村長又ハ警察署駐在巡查ヘ届出ツヘキ
 旨尙ホ一般地民ヘ懇篤示諭スヘシ

第十九章 戸籍

○内務省令第十九號(明治十九年九月廿八日)

明治四年四月四日布告戸籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年正月

第四號布告第八項寄留者届出方左之通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

第一條 出產アリタルルハ十日以内ニ届出ヘシ

第二條 死去アリタルルハ埋葬以前ニ届出ヘシ

第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルルハ十日以内ニ届ヘシ

第四條 廢戶主廢嫡改名改姓身分變換其他願濟ノ上戸籍ニ登記スヘキ事項

ハ其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戶主ヨリ届出ヘシ戶主未定又ハ不在ナ

ルルハ親屬二人以上又ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戸長ニ届出ヘシ

但本籍地外ニアルルハ現在地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届出ヲ

廢送スヘシ

第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルル自己ノ所召地ニ於テハ寄留者ヨ

リ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及ヒ地主又

ハ家主又ハ其他所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本

籍地戸長ヘ届出ヲ廢送スヘシ

第七條 寄留地ヲ去ルル自己ノ所召地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地

主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スルモノヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届

出ヘシ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルルハ戶主又ハ本人ヨリ十日以上ニ届出ヘ

シ

第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾

五錢以下ノ科料ニ處ス

○内務省訓令第四號(明治二十九年六月六日)

明治十九年(九月)内務省令第十九號ニ依ル寄留届寄留者復歸届取扱方左ノ通

リ定ム

一 入寄留ノ届出アルトキハ市長東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下

同シ町村長ハ戸籍取扱手續第二十條ノ手續ヲ了シタル後其届書ニ年

月日登記濟ノ旨ヲ記入シ其職員ヲ押捺シ直ニ之ヲ寄留人本籍地ノ市

町村長ニ送付スヘシ

一 出寄留ノ届出アルトキハ市町村長ハ戸籍取扱手續第二十三條ノ手續

ヲ了シタル後前項寄留地ヨリ發送ノ届書到達スヘキ日數ヲ經タルモ猶到達セサルトキハ其出寄留届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スヘシ

- 一 寄留者本籍ニ歸リタル届出アルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十四條ノ手續ヲ了シタル後其届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ直ニ之ヲ其元寄留地ノ市町村長ニ送付スヘシ

○布告第百〇三號(明治六年三月)

自今外國人民ト婚姻差許左之通定規相定候條此旨可相心得事

- 一 日本人外國人ト婚嫁セントスル者ハ日本政府ノ允許ヲクヘシ
 - 一 外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若故アツテ再ヒ日本人タルノ分限ニ復セシ事ヲ願フモノハ免許ヲ得能フヘシ
 - 一 日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
 - 一 外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ屬シタルモノト雖モ日本ノ不動産ヲ所有スル事ヲ許サシ
- 但シ日本ニ國法並ニ日本政府ニテ定メタル規則ニ背違スルコト無

クハ金銀動産ヲ持携スルハ妨ケナントス

- 一 日本ノ女外國人ヲ婚養子ト爲ス者モ亦日本政府ノ允許ヲ受クヘシ
- 一 外國人日本人ノ婚養子トナリタルモノハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ

- 一 外國ニ於テ日本人外國人ト婚嫁セントスル者ハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本公使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ

公使及領事官ハ裁下ノ上本國政府ヘ届出ヘシ

○安第千〇六十八號(明治廿五年十月廿六日) 警察部通牒

出產死亡届出犯罪事件ニ付別紙甲號之通岡山縣知事ノ問合ニ對シ乙號之通回答セシ旨司法參事官ヨリ通牒有之候條右様御承知相成度命ニ依リ此段及通知候也

(別紙)

司法省參刑甲第三八六號 廿五年十月廿一日司法參事官ヨリ 檢事局廳府縣憲兵司令部宛

出產死亡届出犯罪事件ニ付別紙甲號之通岡山縣知事千坂高雅ヨリ問合有之乙號之通回答致候條爲御心得此段及通牒候也

(別紙甲號) 明治廿五年八月十六日岡山縣知事ヨリ司法省總務局長ヘ問合セ

明治廿一年二月一日司法省刑第一一三號ヲ以テ刑事局長ヨリ地券書換并ニ出產死亡届出
犯則者ハ大審院總會議ニ於テ繼續犯ト決定セル越通牒相成リ爾來其決議變更ノ御通牒モ
無之然ルニ軌近當岡山地方裁判所檢事ニ於テハ出產届失期事件ノ如キハ即時犯トシ處分
スルヲ適當ト認ムル旨警察署長ヘ示諭セル趣右ハ先キ御通牒ニ拘ワス檢事ノ見解ヲ妥
當ト信シ可然乎至急何分ノ煩御報候也

乙號 明治廿五年十月廿一日司法省
參事官ヨリ岡山縣知事ヘ回答

本年八月十六日付警岡第一三一二號内一號ヲ以テ出產死亡届出犯罪事件處分方ノ儀ニ付
總務局長宛御問合之趣領承右ハ即時犯トシテ處分スルヲ相當トス長官ノ命ニ依リ此段及
回答候也

○布告第二十一號(明治六年
一月十八日)

妻妾ニ非サル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受
タルヘキ事

但男子ヨリ己レノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戸長ニ請テ免許ヲ得候
者ハ其子其男子ヲ父トスルヲ可得事

○太政官達第百〇九號(明治八年
十二月九日)

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離縁離縁令相對熟談ノ上タリハ雙方ノ
戸籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做スヘク候條右等ノ届方等開ノ所業

無之樣精々説諭可致置此旨相達候事

司法省達丁第四十六號 明治十年
六月十九日

甲號擬律伺

明治八年第百九號公布婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離縁離縁令相對熟談ノ上タリ
トモ雙方戸籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做ス可ク云々ト有之候付テハ雙方父母親屬
熟談ノ上人ノ妻トナリ男女ノ子アル者ト雖モ戸籍ニ登記無之者ハ犯姦告訴等ノ節無論處女
ト看做シ處分致ス儀ニ可有之尤右ノ者夫又ハ夫ノ祖父父母母ヲ謀殺故殺毆傷罵詈等ニ至ル
迄總テ凡人ヲ以テ論シ且人ノ養子女トナリテ同居シ實際親子ノ會釋ヲ爲ス者ト雖モ前同斷
ノ者ハ皆凡人ヲ以テ處分致シ可然哉已ニ戸籍法規則確定ノ上ハ婚姻又ハ養子女等其時々送
籍等ヲ不爲者ハ無之筈ニ候得共邊土僻隅ノ愚民ニ至テハ絶テナシトモ雖確定候ニ付犯者ア
ルニ臨ミ實際ト條理上ト不都合ヲ可生様有之關係不渺聊疑義ヲ生シ候條豫メ御指揮ヲ受置
度此旨相同候也

明治九年四月十八日

司法卿大木喬任殿

在宮城縣

七等判事有馬純行

乙號

太政官へ上申

婚姻又ハ養子女ノ取組若クハ離縁等ノ儀ニ付テハ八年第百九號ヲ以テ使府縣へ達セラレ
タリ然ルニ該達ハ文意稍明確ヲ欠キ或ハ宮崎縣伺ノ如キ疑團ヲ生スルアリト雖モ該達
ノ文意ヲ熟按スルニ假令ヒ相對熟談ノ上タリヒ云々ノ文字アリテ既ニ其婚姻ヲ行ヒ夫婦ト

ナリタル者ヲ指のメルニアラス其主意ヲ約言スレハ婚姻後子ノ取組等ヲ爲スニ當リ雙方ノ
熟談ノミニテハ一概ニ之ヲ夫婦父子ト見ル可カラサル旨ヲ示シタルモノナリ(尤モ最初該
達施行ノ際ハ此辨明ト其旨意ヲ異ニセシヤモ知ル可カラサレト今日ノ日法律ノ改良修正ヲ
要スルニ當テハ成ルヘク舊法ヲ破毀セス之ヲ辨明ヲ以テ其効ヲ得シムルヲ良トス)然ルニ
若シ之ヲ以テ既ニ婚姻ヲ行ヒ親族隣里モ之ヲ認許セシ者ニ適用シテ凡人ヲ以テ處分スルハ
實ニ人類社會ノ根本タル一家親族ノ大倫ヲ亂スヘキ法律ト云ハサルヲ得ス
別紙有馬判事伺ノ如キ其實明々タル夫婦親子ニシテ獨リ戸籍ノ登記ヲ欠ク者若シ謀殺故殺
犯姦等ノマアランニ凡人ヲ以テ之ヲ論セン耶是レ其形ヲ論シテ其實ヲ論セサル者大ニ法律
ノ原旨ニ悖戾スト謂フヘシ

然リト雖モ其戸籍登記ノ届ヲ爲サ、ル情實ニ因リ元ト其婚姻等ノ成リ立タサル不長ノ所爲
アルモノハ其効ヲ失ハシムル者モ之レアルヘシ因テ別紙ノ通指令可及ト存候且左ノ指令案
ノ趣旨ニ從ヒ各裁判所ヘ念ノ爲メ本省ヨリ布達ニ及ヒ度此段相同候條早速御裁令相成度存
候也
丙號

太政官ヨリ御指令

伺ノ趣八年第二百九號ノ諭達後其登記ヲ忘リシ者アリト雖モ既ニ親族近隣ノ者モ夫婦若シ
クハ養父子ト認メ裁判官ニ於テモ其實アリト認ムル者ハ夫婦若シクハ養父子ヲ以テ論ス可
キ儀ト相心得ヘシ

○布告第四十一號(明治九年四月一日)

自今滿二十年ヲ以テ丁年ト相定候條此旨布告候事

○乙第十八號(明治十六年二月十六日)

(本縣達)

郡區役所 戶長役場

結婚統計上調査ノ都合有之自今男女共結婚ノ爲メ他府縣ヘ送籍スルモノハ
該送籍狀ヘ初縁再縁ノ別記載致スヘシ此旨相違候事

但結婚再三以上ニ係ルモノト雖モ凡テ再縁ト記ス可シ

○訓甲第七號(明治廿七年二月二十日)

郡市役所 町村役場

市役所及ヒ町村役場ニ於テハ其部内本籍人ノ刑罰(輕罪以上ノ刑及賭)ヲ受ケ
及身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ノ取調簿ヲ調
製左ノ書式ニ照準登記シ送籍ヲ要スル届出アルトキハ右帳簿ニ記載アルモ
ノハ該帳本記載ナキモノハ右事項ニ當ル行爲アリシコトナキ旨ノ通知書ヲ
送籍狀ニ添ヘ送付スヘシ

但明治二十年訓令第二十一號中身代限處分ヲ受ケタヲモノ及ヒ受刑者
名簿ニ關スル項ハ廢止ス

○訓乙第十七號(明治廿九年七月廿四日)

自今大坂市各區ニ對スル送籍寄留若クハ犯罪者ノ戶籍事項取調等ニ關スル

事件ハ當該區長ニ對シ直接往復スヘシ

○司法省甲第一號(明治十年二月五日)

去明治六年十二月十日當省第九十號布達ヲ以テ雇人名稱ノ儀相違置候處
今後戶籍屆濟ノ有無ニ拘ハス雇主雇人相許諾シテ一月以上ノ期限ヲ定メ雇
使スル者ハ雇人ヲ以テ論ス可ク候條此旨布達候事

○示警甲第八號(明治二十八年五月廿八日)

里ト子養ヒ子其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハツヌ養育料又ハ手数料ヲ得
テ營利的ニ他人ノ幼兒ヲ引受テ養育スル者有之右ハ單ニ利慾ノ爲メニスル
ニ外ナラサルヲ以テ其衣服ヲ薄シ飲食ヲ減シ苛酷ノ取扱ヲ爲シ遂ニ飢餓凍
餓其生命ヲ失フニ至ラシムルノ弊害アル地方モ尠ナカラサル趣就テハ右等
弊宿無之様豫テ嚴重取締セラルヘシ

警察規程上卷終

明治廿九年十一月十四日印刷

明治廿九年十一月十八日發行

山口縣警察部

印刷者 高村品之助

山口町大字新馬場町第二番屋敷

印刷所 山口活版製造所

全上

EX 3 D 88

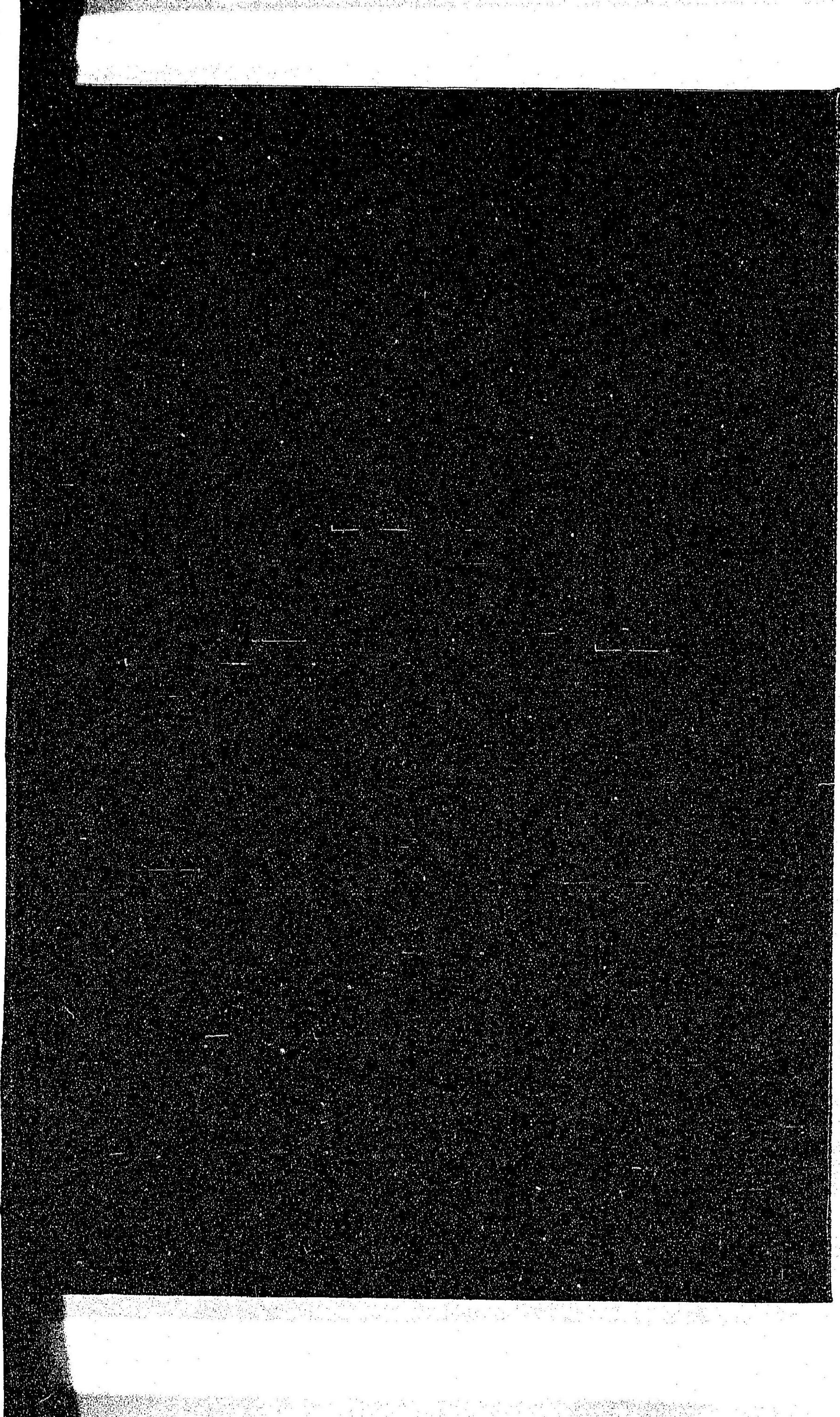
民國二十六年十一月八日

財政部

查各省市縣政府

應即遵照

辦理



禁電子式複写

033578-001-1

CZ-1351-93-01

山口県警察規程

山口県警察部

上

M29

BBK-0418



